

日々のあゆみ 第一集

アンドリュー・マーレー

主は生きておられます！

神は、実に、

そのひとり子をお与えになったほどに、

世を愛された。

それは御子を信じる者が、

ひとりとして滅びることなく、

永遠のいのちを持つためである。

(ヨハ3・16)

彼(キリスト)にあって歩みなさい。

(コロ2・6、7)

The believer's new life

By Andrew, Murray

Copyright (c) 1965, 1984

Published by Bethany House Publishers

目次

序文	2
1章 新しいいのち	6
2章 みことばの乳	9
3章 神のみことばを慕い求める	14
4章 信仰	18
5章 みことばの力	22
6章 神からの贈りものである御子	26
7章 イエスさまご自身の明け渡し	30
8章 神の子ども	34
9章 自己放棄	37
10章 罪からの救い主	41
11章 罪の告白	45
12章 罪の赦し	49
13章 罪のきよめ	53

序文

アンドリュー・マーレー

キリスト者となつて間もない人々のために、新しいのちに関する最も大切な真理を短く単純にしたためた適書があればと切望したことがしばしばありました。しかし残念ながらそれに相当する書物は見いだせませんでした。私が一八八四年にワイトサンタイトに赴任して奉仕の一端を担うようになつて以来、主を見出したと告白した多くのキリスト者の方々と話してきました。しかし、それにも関わらず、彼らは知識と信仰において依然として非常に弱く、この必要は私には痛切に映りました。そこで、日々の歩みの中で、私は本書を執筆する必要に迫られたのです。

私は、彼らの会話から、新しいのちについて曲解し誤解した考えになつていふことついて、強烈な印象を受けました。このことではほとんどの新しいキリスト者が戦わざるをえないのでした。

本書の学びと励ましの言葉を通して、主イエスさまの内にいかに力と喜びに満ちた栄光あるのちが用意されているか、そしてあらゆるこの祝福を楽しむことはいかに簡単にできるかを、キリスト者の方々が知る助けになればと願っています。

本書では、新しいのちに関する最も重要なものとして、次のポイントに限定して取り上げました。

第一は、神のみことばです。みことばは、自らをそれに捧げた最も単純なキリスト者においてすら栄光ある、そして信頼に価する道しるべなのです。

第二は、天の父の贈り物である御子です。それは私たちのためにすべてをなしてくださる、みことばの主要部分です。

第三は、みことばが教えているところの罪に関することです。私たちが罪をイエスさまのところに持つて行くとき、イエスさまご自身が私たちが罪から自由にしてくださるのです。

第四は、信仰です。このことばは、私たちが救いを得るために、何かを持ち出したり実行したりすることは、何の役にも立たないということを意味しています。私たちは、日々のあゆみを、上からの贈り物として受け取らなければなりません。

第五は、聖霊です。キリスト者はこのお方（聖霊）と親しくならなければなりません。このお方を通して、みことばとイエスさまが、すべての主のみわざをなしてくださるのであり、主を信頼することを通して力と真実がもたらされるのです。

第六は、従順で実り豊かな聖い生き方です。聖い生活の中で聖霊が私たちに日々のあゆみを教えてくださるのです。

新しいのちにとって大切なこれらの基本的な六つのポイントには、私が自ら限定しました。それは、新しいキリスト者の方々が、何と輝かしい力に満ちた人生を御父から受け取ったかを理解できるために、この書物を神が用いてくださるように、絶え間ない祈りの中で準備されました。

私が新しいキリスト者の方々とのお交わりから離れて寂しい場所に帰ることは、大きい躊躇がしばしばありました。そこでは、相談相手や援助もほとんどなく、みことばの説教でときどき交わる程度でした。私が書くために主が与えてくださったことは、きっとこれらの多くの若いキリスト者の方々の理解の助けとなることを、私は確信して期待しています。

この本を書きながら、読者の方々にもう一つの願いをもってきました。私の文章が神の言葉から注意を奪うことなく、むしろみことばをより高めるものとなるようにと希望しています。そのために、本文のに関連する主要な聖句の箇所を脚注に記しました。(みことばに注意が向けられるように、訳者は聖句を記載しました。) これらのみことばを通して、読者がみことばそのものに、神ご自身に、十分耳を傾けていただきたいと願っています。

本書の構成が二つの利益を生み出すことを期待していません。みことばを適切に調べる方法は、多くの人が知らない

ばかりか、ひもといてくれる人もいないのです。読者はそれぞれその点を熟考し、さらに聖句を注意深く読むようにしましょう。そうするならば、教えを理解したい時に、神のみことばに聞き入る方法を学びはじめることができるようになるのです。

本書は、毎週の祈り会やみことばの学びのための集い、家庭集会での学びにも役立つでしょう。これらを始めるとき、メンバーは、指定された章を読み、最も重要と思われる箇所を吟味します。その集会の司会者は、その箇所を大きい声で読み上げ、話し合いをはじめます。

私たちの集会では、この種の集いが大変有益であることに気づいています。この繰り返しが、福音説教では得られない方法で、神のみことばを探索するように導いてくれるのです。それは集会のメンバー、特に若い人たちを、みことばの学びが一人でできるようにかき立てます。キリストの御体の肢体の生き生きとした交わりをもたらし、愛の内に築き上げられるようになるのです。それは、みことばを神のみことばの生きた語りかけとして理解するようにし、それによって、神の力が神に喜ばれる働きをします。

多くの主を信じる兄弟姉妹が、主のために何が実行できるのかを尋ねます。この学びと話し合いによって、彼らは大きな祝福の管となることができます。多くの近隣の兄弟や友だちが毎週交わり、それぞれが予習してきた学びを

聞くようにしましょう。主は、このような集いに、主の祝福を確かに与えてくださるのです。

読者の方々にもう一つお願いがあります。それは各章を最低三回読んでいただきたいということです。神のことに對する私たちのあらゆる探求の最大の欠点は、表面的であることです。何かを読んでそれを理解したら、私たちはこと足れりとしてしまいます。そうではありません。それが感動となり、私たちにその影響を及ぼすようになるために、私たちは時間を費やさなければなりません。

一回目は、どの部分を読むときにも、本文の中にある良い点を理解できるように慎重に読み、そこからどんな益を受けたかを考えてください。

二回目は内容が神のみことばと一致しているかどうかを確かめながら読んでください。引用されている聖句の全部が無理なら、いくつかを取り出して、関連する課題について神が何と言っておられるかを把握するために熟考してください。私たちが主と主のみことばについてどのように考え信じるべきかを、神がみことばを通して私たちに教えてくださいますように。

三回目は、それらの内容が私たち自身の生活にどのように関連しているかを見いだすために読んでください。私たちの生活が新しいのちと調和しているかどうかを知り、私たちの将来が完全に神のみことばに沿った日々のあゆみとなりますように。神のみことばのために費やされた時間は

何十倍にもなって報われることを確信します。

私は祈ります。主があなたの内にみわざを確かなものとしてくださいますように。私はあなたに叫ぶのに飽きることはありません。あなたに与えられた新しいのちの祝福と力とは、あなたの考える以上に偉大なのです。神の贈り物であるイエスさまに信頼することと、神のみことばである聖書を正確に知ることだけを学びましょう。神があなたと交わり、あなたの内に働いてくださるよう、主に時間だけを捧げましょう。そうすればあなたの心から神の祝福があふれ流れることでしょう。

私たちが求めたり考えたりするすべてのことをはるかに越えて事を成し遂げてくださるお方に、栄光が永遠にありますように。

一八八五年八月二一日

南アフリカ・ウェリントンにて

わたしにとどまりなさい。わたしも、あなたがたの中にとどまります。枝がぶどうの木についていなければ、枝だけでは実を結ぶことができません…わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです。

(ヨハ15・4、5)

その日、麗しいぶどう畑、これについて歌え。わたし、主は、それを見守る者。絶えずこれに水を注ぎ、だれも、それをそこなわないように、夜もこれを見守っている。

(イザ27・2、3)

主はあなたの足をよろけさせず、あなたを守る方は、まどろむこともない。見よ。イスラエルを守る方は、まどろむこともなく、眠ることもない。主は、あなたを守る方。主は、あなたの右の手をおおう陰。

(詩121・3〜5)

こういうわけですから、兄弟たち。主が来られる時まで耐え忍びなさい。見なさい。農夫は、大地の貴重な実りを、秋の雨や春の雨が降るまで、耐え忍んで待っています。

(ヤコブ5・7)

わたし(イエス)は、世の光です。わたしに従う者は、決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです。

(ヨハ8・12)

1 新しいいのち

神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

(ヨハ3・16)

このいのちが現われ、私たちはそれを見たので、そのあかしをし、あなたがたにこの永遠のいのちを伝えます。すなわち、御父とともにあって、私たちに現わされた永遠のいのちです。

(1ヨハ1・2)

主イエスを信じるすべてのものが受け取る祝福は輝かしいものです。それによって、その人の性質と生き方に変化が生じるだけではなく、全く新しいいのちを天から神の御手を通して受け取っているのです。その人は新しく生まれた神のこどもです。その人は死からいのちに移されてしまっているのです。

この新しいいのちとは、永遠のいのちに他なりません。

わたしは、天から下って来た生けるパンです。だれでもこのパンを食べるなら、永遠に生きます。またわたしが与えようとするパンは、世のいのちのための、わたしの肉です。

(ヨハ6・51)

御子を持つ者はいのちを持っており、神の御子を持たない者はいのちを持っていません。私が神の御子の名を信じて

いるあなたがたに対してこれらのことを書いたのは、あなたがたが永遠のいのちを持っていることを、あなたがたによくわからせるためです。

(1ヨハ5・12、13)

これは多くの人が考えるように、私たちの寿命が尽きることなく、永遠に続くということではありません。永遠のいのちとはまさに神のいのちそのものであって、神が永遠の昔からご自身の内に持つておられ、キリストにおいて私たちに現わされたいのちです。今やこのいのちはすべての神のこどもへの贈り物なのです。

そのあかしとは、神が私たちに永遠のいのちを与えられたということ、そしてこのいのちが御子のうちにあるということです。

(1ヨハ5・11)

このいのちは、想像もつかないほどの力あるいのちです。神が若い植物や動物に生命を与えられる時はいつでも、その生命の内には成長できる力があり、自力で大きく育つようにされるのです。いのちとは力です。新しいいのちには、即ち私たちの心の中には、永遠の力が秘められているということなのです。

(キリストは)確かに、弱さのゆえに十字架につけられましたが、神の力のゆえに生きておられます。私たちもキリストにあって弱い者ですが、あなたがたに対する神の力のゆえに、キリストとともに生きています。

(2コリ13・4)

どんな木や動物の健全な成長よりも確実なのは、新しいのちの働きに実際に自分をゆだねている神の子どもの成長と成熟です。この力と新しい霊的ないのちとを受けけるのを妨げる二つの基本的なことがあります。一つは、このいのちの性質、即ちその法則と働きについて無知であることです。たとえクリスチャンであっても、神から与えられる新しいのちについては、人間には想像すらできません。人間のすべての考えを越えているからです。神に仕え、神を喜ばせる方法についての自分自身の間違った考え、すなわち人の行ないと存在そのものがあまりにも深くその人の内に根を下ろしているために、自分では神の言葉を理解し、受け取っていると思っただけでも、実際は霊の思いを人間的な水準でしか考えていないのです。

しかし、イエスは振り向いて、ペテロに言われた。「下がれ。サタン。あなたはわたしの邪魔をするものだ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている。」

(マタ16・23)

神は救いといのちを与えるだけでなく、同時に神のくださるものを理解するために、助けとして神の霊をも与えてくださるのです。神はカナンの地とそこへ至る道を指し示してくださいただけではなく、同時に私たちは毎日神によってカナンの地へと導かれ続けねばなりません。

新しいキリスト者は、新しいいのちに関する無知と、そのいのちについての正しい考えを形成することができない無能さを、聖霊に示していただかねばなりません。そうする

ならば、私たちは柔和にされ、すなおな子どものような霊を持つようになるでしょう。それによって、主は隠されたことを私たちに理解させることができになるのです。

あなたの真理のうちに私を導き、私を教えてください。あなたこそ、私の救いの神、私は、あなたを一日中待ち望んでいるのです。

(詩25・5)

主は、いつくしみ深く、正しくあられる。それゆえ、罪人に道を教えられる。主は貧しい者を公義に導き、貧しい者にご自身の道を教えられる。

(詩25・8、9)

そのとき、イエスはこういわれた。「天地の主であられる父よ。あなたをほめたたえます。これらのことを、賢い者や知恵のある者には隠して、幼子たちに現わしてくださいました。」

(マタ11・25)

信仰の道に、もう一つの妨げがあります。すべての植物や動物、子どもは、成長するための十分な力を備えています。神は新しいいのちの中に、子どもが成長し最善の姿に到達するために、十分な力を伴う最もすばらしい備えを与えられたのです。キリストご自身が私たちのいのちであり、私たちの生命力なのです。

私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が、この世に生きているのは、私を

愛し私のためにご自身をお捨てになつた神の御子を信じる
信仰によつていゝのです。(ガラ2・20)

けれどもこの力強いのちは目には見えないし、また感じることもできないのみか、むしろ人間の弱さのただ中に働くので、新しいキリスト者はしばしば疑いを抱くようになるのです。従つて、この二つ目の妨げは、キリスト者が神の力と確かさのもとに、自分が必ず成長するといふことが信じられないことなのです。信仰生活とは、何も見たり感じたり経験したりできなくても、その人のために備えられたキリストの内にあるのちに頼つた、信頼の生活であるといふことが理解できないのです。

そこで、この新しいのちを受けた人はすべて、次の大きな信念を養つていきましよう。私の内に働くのは永遠のいのちです。神の力が働くのです。私は神が望んでおられる私になることができるし、またそうなるのです。キリストご自身が私のいのちです。私は毎日イエスを神のいのちとして私の内に受け入れます。そうすれば、イエスが力が満ちて、私のいのちとなつてくださるのです。

祈り

父なる神様。私がイエスさまにあつていのちを得るようにと、あなたはひとり子イエスさまを私に与えてくださいました。今私の内にある、この栄光に満ちた新しいのちを感謝します。この新しいのちを理解できるように助けてください。あなたの道に関して無知や間違つた考えが私の

内にあることを認めます。私の内にある新しいのちの天の力を信じます。ご自身が私のいのちであられる私の主イエスさまが、私がこのいのちをどのように生きたらよいかを、御霊によつて教えてくださることを信じます。
アーメン。

課題

以下の課題を心にとめて黙想してください。

- 一、信仰によつてあなたが今受けたのは、永遠のいのち、神のいのちそのものです。
- 二、キリストにあるこの新しいのちはあなたの内にある、聖霊を通してキリストの内にあるすべてものを、あなたに知らせてくださるのです。キリストは、聖霊を通してあなたの内に生きておられます。
- 三、このいのちは、すばらしい力に満ちたいのちです。たとえあなたがどんなに弱いと感じても、あなたの内にあるいのちに働く神の力を信じてください。
- 四、このいのちがあなたの内で成長し、あなたを所有するためには時間を必要とします。時間をかけてください。そうすれば、確実に成長するでしょう。
- 五、この新しいのちの法則や方法は、神を喜ばせようとするあらゆる人間的な考え方とは対立するということを忘れないでください。救われる前の古い考え方に陥らないよう注意深く警戒し、あなたのいのちであり、またあなたの知恵であられるキリストに、すべてのことを教えていただくようにしましよ。

2 みことばの乳

生まれたばかりの乳飲み子のように、純粋な、みことばの乳を慕い求めなさい。それによって成長し、救いを得るためです。

(1ペテ2・2)

新しいキリスト者として、天の父がこのみことばの中で言われていることに注意深く耳を傾けてください。私たちはほんの最近主に自分をささげたのです。そして主が私を受け入れてくださったことを信じました。私は神から新しいのちを受けました。今や私は、まさに生まれたばかりの乳飲み子なのです。私たちが成長し強くなるために、私たちにとって何が必要かを、主がこのみことばで教えてくださいます。

第一のポイントは、自分は神の子どもであるということ。私たちが知らなければならぬことです。このことを回心したばかりの人々に、ペテロが明言したことを聞いてください。

「あなたはあたらしく生まれたのです。」

あなたがたが新しく生まれたのは、朽ちる種からではなく、朽ちない種からであり、生ける、いつまでも変わる」との**ない、神のことばによるのです。** (1ペテ1・23)

「あなたは生まれたばかりの乳飲み子です。」

生まれたばかりの乳飲み子のように、純粋な、みことばの乳を慕い求めなさい。それによって成長し、救いを得るためです。

(1ペテ2・2)

「あなたは今、神のもとに立ち返ったのです。」

あなたがたは、羊のようにさまよっていましたが、今は、自分のたましいの牧者であり監督者である方のもとに帰ったのです。

(1ペテ2・25)

「あなたは今は神の民です。」

あなたがたは、以前は神の民ではなかったのに、今は神の民であり、以前はあわれみを受けない者であったのに、今はあわれみを受けた者です。

(1ペテ2・10)

キリスト者は、いかに幼く弱くても、自分が神の子どもであるということを知らなければなりません。そのとき初めて私は前進することができるのだと信じる勇氣を持つことができ、そしてみことばの中に備えられた幼児の食物を大胆に食することができるのです。すべてのみことばは、私たちが神の子どもであることを知らなければならぬことと、またそれができるとを教えています。

あなたがたは神の神殿であり、神の御霊があなたがたに宿っておられることを知らないのですか。

(1コリ3・16)

そして、あなたがたは子であるゆえに、神は「アバ父。」と呼ぶ、御子の御霊を、私たちの心に遣わしてくださいました。ですから、あなたがたはもはや奴隷ではなく、子です。子ならば、神による相続人です。(ガラ4・6、7)

私が神の御子の名を信じているあなたがたに対してこれらのことを書いたのは、あなたがたが永遠のいのちを持つていることを、あなたがたによくわからせるためです。

(1ヨハ5・13)

信仰の確信は、主にあって健康的で力強く成長するため、不可欠です。

あなたがたは、以前は暗やみでしたが、今は、主にあって、光となりました。光の子どもらしく歩みなさい。

(エペ5・8)

従順な子どもとなり、以前あなたがたが無知であったときのさまざまな欲望に従わず、あなたがたを召してくださいました聖なる方にならって、あなたがた自身も、あらゆる行ないにおいて聖なるものとされなさい。

(1ペテ1・14、15)

ご承知のように、あなたがたが先祖から伝わったむなし生き方から贖い出されたのは、銀や金のような朽ちる物にはよらず、傷もなく汚れもない小羊のようなキリストの、尊い血によったのです。

(1ペテ1・18、19)

このみことばが教える第二のポイントは、私たちは生まれたての赤ん坊のようにまだ非常に弱いということです。新しいキリスト者は、喜びや愛を体験した時、自分がとても強いかにように思ってしまうものです。そして自分自身を高める高慢の危険、経験に信頼をおく危険を冒してしまいます。それにもかかわらず、私たちはどうしたらイエスさまにあって強くなることができるかを学ばなければなりません。自分はまだ幼く弱いということを認めることが大切なのです。

まだ乳ばかり飲んでいような者はみな、義の教えに通じてはいません。幼子なのです。しかし、堅い食物はおとなの物であって、経験によって良い物と悪い物とを見分ける感覚を訓練された人たちの物です。(ヘブ5・13、14)

心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人のものだからです。

(マタ5・3)

百人隊長は答えて言った。「主よ。あなたを私の屋根の下にお入れする資格は、私にはありません。ただ、おことばをいただかせてください。そうすれば、私のしもべは直りますから。」

(マタ8・8)

第三のポイントは、新しいキリスト者は弱いままでもどま
つていてはならないということです。成長し恵みが憎し加
わらなければなりません。前進し強くならなければなりま
せん。これは私たちに對する主からの命令です。みことば
は、この点に関して最もすばらしい約束を与えています。
この命令は、人間の本質的な必要のゆえに与えられている
のです。神の子どもは前進しなければならぬし、またそ
れができるのです。新しいのちは健やかで強いものちな
のです。キリストの弟子がこの命令に自らを明け渡すと
き、成長が確実に伴います。

彼らは、主の家に植えられ、私たちの神の大庭で栄えま
す。彼らは年老いてもなお、実を實らせ、みずみずしく、
おい茂っていますよ。(詩92・13、14)

私たちの主であり救い主であるイエス・キリストの恵みと
知識において成長しなさい。このキリストに、栄光が、今
も永遠の日に至るまでもありますように。アーメン。

(2ペテ3・18)

第四のポイントは、新しいキリスト者にとって最も大切な
基本的な課題です。神の幼子が成長できるのはみことばの
乳を通してです。神の霊を通して与えられた新しいのち
は、神が語られたみことばによってのみ維持することがで
きるのです。私たちの霊的生活は、みことばにいかにか
従い、注意深くこれを取り扱うか、つまり最初から私たち

の乳(糧)としてみことばをいただくことを学ぶかどうか
に大きくかかっています。

どんなにか私は、あなたのみおしえを愛していること
でしょう。これが一日中、私の思いとなっています。

(詩119・97)

なぜ、あなたがたは、食糧にもならない物のために金を払
い、腹を満たさない物のために労するのか。わたしに聞き
従い、良い物を食べよ。そうすれば、あなたがたは脂肪で
元気づこう。耳を傾け、わたしのところに出て来い。聞
け。そうすれば、あなたがたは生きる。わたしはあなたが
たとこしえの契約、ダビデへの変わらない愛の契約を結
ぶ。

(イザ55・2、3)

主は、母親の乳を用いて魅力的なたとえを話されました。
母は自らのいのちそのものから、わが子への食物といのち
をもたらしめます。赤ちゃんにお乳をあげることは、最も優
しい愛の行為なのです。その時赤ちゃんはお母さんの胸に
しっかりと抱かれ、お母さんと最も親しい交わりをして
いるのです。穏やかでしかも力強い食物である乳こそ、か
よわい赤ちゃんがまさに必要とするものです。たとえその
ようであっても、神のみことばの中にはいのちそのものと、
神の力が含まれています。

いのちを与えるのは御霊です。肉は何の益ももたらしま
せん。わたしがあなたがたに話したことは、霊であり、ま
たいのちです。

(ヨハ6・63)

神の愛は、母乳のように、私たちの弱さにぴったりのみことばから与えられます。みことばは私には難しすぎるとか堅すぎると、決して思ってはなりません。みことばを受け取り、聖霊によって教えられるために、イエスキスマに誠実に頼るキリスト者にとつて、神のみことばは新しく生まれた乳飲み子のための優しく甘い乳であることがわかるでしょう。

私の目を開いてください。私が、あなたのみおしえのうちにある奇しいことに目を留めるようにしてください。

(詩 119・18)

しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、また、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。

(ヨハ 14・26)

愛する新しいキリスト者の友よ。私たちは立ち続け、強くなり、いつも主のために生きようではありませんか。それでは、父の言われることを聞きましょう。

生まれたばかりの乳飲み子のように、純粋な、みことばの乳を慕い求めなさい。それによって成長し、救いを得るためです。

(1ペテ 2・2)

このみことばをあなたの父の声としてしっかりと心に受け入れ、堅く握りしめてください。御霊による生活は、あな

たに対する神の思いである神のみことばを、あなたがどのようなに用いるかにかかっているのです。神のみことばがあなたにとつて、何よりも貴重なものとなりますように。

私は、あなたの仰せを喜びとします。それは私の愛するものです。私は私の愛するあなたの仰せに手を差し伸べ、あなたのおきてに思いを潜めましょう。

(詩 119・47、48)

私をささえてください。そうすれば私は救われ、いつもあなたのおきてに目を留めることができましょう。

(詩 119・117)

とりわけこのことを忘れてはなりません。みことばは乳です。子どもが乳を吸う行為や飲む行為は、親密な、生き、祝福された、母の愛との交わりなのです。聖霊によつて、みことばの乳をのむことが、神の愛との暖かい生きた交わりとなるのです。ですからこの乳を熱心に慕い求めましょう。みことばを、理解しにくい面倒なものだと考えてはなりません。さもなければ、みことばに対する全ての喜びを失ってしまいます。生ける神の愛を信頼して、みことばを受け取りましょう。神の霊は優しい母の愛のように、弱さの中にあるあなたを教え、助けてくださいます。聖霊が、あなたの心にあるみことばをいのちとし、喜びとし、神との祝福された交わりとしてくださるでしょう。

祈り

尊い救い主。あなたは私に、みことばを信じることを教えてくださいました。そしてその信仰によって、あなたの子どもとしてくださいました。乳で幼子が養われるように、みことばによって私を養ってください。主よ、あなたのみことばを切望します。毎日、慕い求めます。聖霊とみことばを通して、父の愛との生きた交わりの中を日々歩むことを教えてください。あなたの御霊がみことばと共に私に与えられていることをいつも信じられるように助けてください。アーメン。

課題

一、聖書は私たちに、私たちは自分が神の子どもであることを知らなければならず、教えています。その真理を証明するのにどのみことばが最適と思いますか？

二、新しいキリスト者がみことばを取り扱うことについて、子どもが母の乳を吸うことと共通している三つの点は何ですか？

三、神のみことばを読んでも祝福を感じられない時、新しいキリスト者は何をすべきでしょうか？

(私は信仰によってイエス・キリストとの親しい交わりを持つている、と断言するのです。聖霊を通してイエスさま

が私に教えてくださるといふ事実を信じて、忠実にみことばを読み続けるのです。)

四、覚えてください。あなたの人生における必要を満たす一つの聖句が十回読まれ、心に蓄えられることは、一度に十の聖句を読むよりも有益です。自分自身のためのものでして、私たちが実際に受け取り、内面的に自分のものとなったみことばだけが、私たちの魂の糧となるのです。

五、私たちは必ず前進し強くなるという、最もすばらしい約束の一つと思う聖句を一つ選んでください。それを暗記して、積極的に期待を表明することばとして、絶えず繰り返して口にしましょう。

六、恵みの内に成長するために大切な方法とは何か完全に理解できましたでしょうか？

3 神のみことばを慕い求める

あなたがたは、私のこのことばを心とたましいに刻みつけ、それをしるしとして手に結びつけ、記章として額の上に置きなさい。
(申11・18)

その方は私に仰せられた。「人の子よ。わたしがあなたに告げるすべてのことばを、あなたの心に納め、あなたの耳で聞け。」
(エゼ3・10)

あなたに罪を犯さないため、私は、あなたのことばを心にたくわえました。
(詩119・11)

みことばの乳を熱心に慕い求めなさい。「あなたがそれによつて成長するために」この喜ばしいことばは、すべての新しいキリスト者に教えられなければなりません。成長したいならば、神のいのちと愛とに絶えずあずかるために、みことばを乳として受け取らなければなりません。そのためには、みことばの取り扱い方を理解することが非常に大切です。主は、私たちがみことばを受け取り、心に蓄えなければならぬと言われました。

そこでイエスは、その信じたユダヤ人たちに言われた。「もしあなたがたが、わたしのことばにとどまるなら、あなたがたはほんとうにわたしの弟子です。」
(ヨハ8・31)

キリストのことばを、あなたがたのうちに豊かに住ませ、知恵を尽くして互いに教え、互いに戒め、詩と賛美と霊の歌とにより、感謝にあふれて心から神に向かつて歌いなさい。
(コロ3・16)

みことばで心が支配され、みことばで満たされなければならぬのです。それは何を意味するのでしょうか。私たちの心は神の宮です。神の宮の中には、外庭と聖所とがあります。心においても同じです。外庭に入る門は私たちの理解を意味します。理解できないことは心に入れることができません。理解という外門を通して、みことばが庭に入ることができます。みことばはそこで記憶され、熟考されることによつて、保たれます。

しかし、まだ完全に心に入つて来た訳ではありません。大庭から至聖所に至る入り口があります。至聖所に入る扉の入り口は信仰です。私が信頼すること、それがまさに私の心に受け入れることなのです。

また、そのみことばをあなたがたのうちにとどめてもいません。父が遣わした者をあなたがたが信じないからです。
(ヨハ5・38)

そのように、信仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリストについてのみことばによるのです。

(ロマ10・17)

そこで初めて心の中に入ったみことばが、愛と意志の服従の内にしっかりと根をおろすのです。このことが成される

時、心は神の聖所となります。契約の箱の中にあつたように、主の律法が心の中に置かれます。そして、魂は叫びます。「律法は、わたしの心の中にある」と。

わが神。私はみこころを行なうことを喜びとします。あなたのおしえは私の心のうちにあります。(詩40・8)

キリストのことばを、あなたがたのうちに豊かに住ませ、知恵を尽くして互いに教え、互いに戒め、詩と讚美と霊の歌により、感謝にあふれで心から神に向かって歌いなさい。(コロ3・16)

新しいキリスト者の方々。神は、あなたの心と、あなたの愛と、あなたの全存在とを、求めておられます。あなたはすでに自分を主におささげしたのです。主はあなたを受け入れ、あなたとあなたの心をご自身のものとされたのです。主は、あなたの心がみことばで満たされることを願っておられます。人は心の中にあるものを大切にします。自分に喜びを与えることを、人は絶えず考えているからです。神は、私たちの心にみことばを与えてくださいます。主のみことばのあるところに、主ご自身と主の力があるのです。主は、主のみことばをいつでも忠実に成就してくださいます。みことばを持つ人は、その人の内に働かれる神ご自身を持っているのです。

主は、約束されたとおりに、サラを顧みて、仰せられたとおりに主はサラになされた。(創21・1)

まことに、その人は主のおしえを喜びとし、昼も夜もそのおしえを口ずさむ。その人は、水路のそばに植わった木のようにだ。時が来ると実がなり、その葉は枯れない。その人は、何をしても栄える。(詩1・2、3)

真理によって彼らを聖め別ってください。あなたのみことばは真理です。(ヨハ17・17)

「これらのわたしのことばをあなたの心の中に蓄えなさい」という御父のこのことばを、すべての新しいキリスト者が単純に受け入れて、神のみことばに満たされるために全身を傾けるようになることを、私はどんなに切望していることでしょうか。これを実行することを決心してください。あなたが読んだことを理解するように努めてください。それが理解できたら、それを記憶にとどめるために心の中に取り込んでください。神のみことばを暗記してください。一日の生活の中で、何度も繰り返して口にしてみましょう。みことばは種です。種が成長するには時間を要します。種は地面の下に埋められなければなりません。同様にみことばも、じっくりと心の中へ取り込まなければならぬのです。あなたの心の最良の力と、あなたの愛と、あなたの願いと、自発的で喜びに満ちたあなたの意志の働きを、神のみことばにささげましょう。

幸いなことよ。悪者のはかりごとには歩まず、罪人の道に立たず、あざける者の座に着かなかつた、その人。まこと

に、その人は主のおしえを喜びとし、昼も夜もおしえを口ずさむ。
(詩1・1、2)

心が、この世の思いで満たされるのではなく、神と主の思いが宿る聖霊の宮となりますように。

あなたがたがわたしにとどまり、わたしのことばがあなたがたにとどまるなら、何でもあなたがたのほしいものを求めなさい。そうすれば、あなたがたのためにそれがかなえられます。
(ヨハ15・7)

神の御声を聞くために、忠実に心を開いてそのみことばを自分のものとする人は、神もまた忠実にその人の声に心を開かれて、その人が主に祈っていることを聞いてくださることを知るようになるでしょう。

愛する人たち。この章の初めのみことばをもう一度読んでください。それらをあなたに対する神の御声として受け取ってください。あなたがたを子どもとして受け入れてくださった父の御声として受け取り、あなたがたを神の子どもとしてくださったイエスキリストの御声として受け取るのです。神は神の子どもであるあなたを求めておられます。あなたが神のみことばで満たされるようになるために、あなたがあなたの心をささげることが求めています。あなたはこれを実行しますか？

主イエスキリストは、主の聖なるみわざをこの道に沿って、あなたの内に力強く成就してください。

「わたしの戒めを保ち、それを守る人は、わたしを愛する人です。わたしを愛する人はわたしの父に愛され、わたしもその人を愛し、わたし自身を彼に現わします。」

イエスは彼に答えられた。「だれでもわたしを愛する人は、わたしのことばを守ります。そうすれば、わたしの父はその人を愛し、わたしたちはその人のところに来て、その人とともに住みます。」
(ヨハ14・21、23)

私はあなたのみことばを見つけ出し、それを食べました。あなたのみことばは、私にとって楽しみとなり、心の喜びとなりました。万軍の神、主よ。私にはあなたの名がつけられているからです。
(エレ15・16)

みことばが理解しにくいと感じられる時は、何度も何度も読み返してください。御父は、そのみことばを祝福すると、あなたの心の中で約束されたのです。しかし、あなたはまずそのみことばを心に留めなければなりません。それから神が聖霊によって、みことばをあなたの内で生きた力強いものとしてくださることを信じてください。

祈り

父なる神様。あなたは私に「わが子よ。お前の心をわたしに預けよ。」と言われました。私はあなたに私の心を差し上げました。あなたの私に対する命令は、私の心にあるのみことばを蓄え、大切にしまっておくことであるということが今わかりました。私はお答えします。心を尽くしてあなたのみおしえをお守りします。お父さま。みことばが

祝福された影響を及ぼすことができるように、日ごとにあなただのみことばを私の心に受け入れることを教えてください。

今はみことばの意味と力を完全には理解できなくても、みことばが私の内で生きた力強いものとなるために、私はなおもあなたに信頼することができるといふ深い信念で私を強めてください。アーメン。

課題

一、知識を増すためにみことばを読むのと、信仰によってみことばを受け取るのでは、何が違いますか？

二、みことばは種のようなものです。種は芽を出すのに時間を要します。この期間中、種は地中に静かに絶えず保たれていなければなりません。同じように、神のみことばはただ読むだけではなく、それを沈黙考しなければなりません。そうして初めて私の中で有益なものとなるのです。みことばは一日中私の内になければなりません。みことばは私の心にとどまり、住まなければなりません。

三、神のみことばが、それを読んで祝福を切望する人に、時としてほとんど力にならないのはなぜでしょうか？

(一つの主な理由は、みことばの種が成長するのに必要な時間を与えないからです。みことば自身が働くという確信をもつて、みことばを握りしめ、熟考することをしないからです。)

四、大祭司としてのとりなしの祈りの中で、イエスさまが最初に挙げておられる弟子の特徴とは何ですか？(ヨハ17章)

五、神のみことばに満たされている心が持つ祝福とは何ですか？

4 信仰

主によって語られたことは必ず実現すると信じきった人は、何と幸いなことでしょう。(ルカ1・45)

ですから、皆さん。元気を出しなさい。すべて私に告げられたとおりになると、私は神によって信じています。

(使27・25)

彼は、不信仰によって神の約束を疑うようなことをせず、反対に、信仰がますます強くなって、神に栄光を帰し、神には約束されたことを成就する力があることを堅く信じました。(ロマ4・20、21)

神は、私たちが主のみことばを受け取り、心の中に貯えるように求められました。みことばが受け取られ、心の内部の最も奥深くへと受け入れられるために必要なのは信仰です。新しいキリスト者の友よ。信仰とは何なのかをよりよく理解することに絶えず努めましょう。その時私たちは、偉大なことが信仰と結びついていて理由を洞察する力を得るでしょう。完全な救いは、日々信仰に頼ることによってもたらされるということが、本当にわかるようになるのです。

こうして、彼らは翌朝早く、テコアの荒野へ出陣した。出陣のとき、ヨシヤパテは立ち上がって言った。「ユダおよ

びエルサレムの住民よ。私の言うことを聞きなさい。あなたがたの神、主を信じ、忠誠を示しなさい。その預言者を信じ、勝利を得なさい。」(2歴20・20)

するとイエスは言われた。「できるものなら、と言いつつのか。信じる者には、どんなことでもできるのです。」(マル9・23)

この章の初めに挙げた三つの聖句をもう一度読み返し、信仰に関する基本的な教えが何であるかを見つけ出してください。自分の考えをいっさい入れないで、これらの神のみことばを素直に読み、信仰についてそれらのみことばが自分に何を教えているのかを自問してみます。これらのみことばによって、信仰は常に神の言われたことや約束されたことに結びついていてということがわかるようになるでしょう。尊敬に値する人は、自分が言ったことを実行します。その人の言ったことの後には必ず行動が伴うのです。神についても同じです。神が事を行なわれる時には、まず最初にみことばの中でその旨を告げられます。キリスト者がこの確信を強く抱き、みことばに立つ時、神は常にその人のために言われたことを実行なさいます。神においては、いつも言行一致です。ことばには実行が伴うのです。主が語られてなお、実行されないことなどあるのでしょうか？

神は人間ではなく、偽りを言うことがない。人の子ではなく、悔いることがない。神は言われたことを、なさらぬ

だろうか。約束されたことを成し遂げられないだろうか。

(民23・19)

どうか、あなたのしもべへのみことばを思い出して下さい。あなたは私がそれを待ち望むようになさいました。

(詩119・49)

神が何かをすると約束されたみことばを私が受け取った時、神が必ずそれを成し遂げてくださると確信することができます。ただそのみことばを受け取り、しっかりとらえ、その上で神を待ち望めばよいのです。神が心にかけて私への主のみことばを実行してくださいます。

私は何かを感じたり経験したりする前に、約束を握り締めます。そうすれば、神が約束を果たしてくださることを信仰によつて知るのであります。

マリヤは言った。「ほんとうに、私は主のはしためです。どうぞ、あなたのおことばどおりこの身になりますように。」

(ルカ1・38)

イエスは彼女に言われた。「もしあなたが信じるなら、あなたは神の栄光を見る、とわたしは言ったではありませんか。」

(ヨハ11・40)

信仰とは何でしょうか？神が言われることが真実であるとの確信にほかなりません。神が「在る。」と言われる時は、たとえそこに何も見えなくても、信仰は喜ぶのです。

バプテスマを受けてキリストにつく者とされたあなたがたはみな、キリストをその身に着たのです。

(ガラ3・27)

神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

(ヨハ3・16)

キリストは、万物をご自身に従わせることのできる御力によつて、私たちの卑しいからだを、ご自身の栄光のからだと同じ姿に変えてくださるのです。

(ピリ3・21)

在るけれども見たことのないもの、まだないけれどもやがて来たるべきものは、信仰にとっては完全に信頼できるものなのです。

信仰は神が何と言われたかだけを求め、みことばを成就される神の忠実さと力に信頼するのです。

聖書のみことばをもう一度見てみましょう。マリヤに関してこう書いてあります。

「主によつて語られたことは必ず実現すると信じきった人は、何と幸いなことでしょう。」

(ルカ1・45)

みことばの中で語られたことはすべて私に成就します。ですから私はみことばを信じます。

アブラハムは、神には約束されたことを成就することがおできになる、と確信していたと記されています。神が約束されたことを成し遂げてくださる！これが信仰の確信です。

このことはパウロのことばの中に明確に述べられています。

「私は神を信じる。神は語られたことは必ず成就される。」

神が語られたことは神が必ず実現されるということを、彼は確信していたのです。

新しいキリスト者の友よ。あなたの内にある、新しい永遠のいのちは信仰のいのちです。このいのちが何と単純で、何と祝福されたものであるのがわかりませんか？ 私たちは毎日みことばを開き、神がすでに実行され、これから成し遂げると語っておられることについて、神が言われていることに耳を傾けるのです。

私たちは、信仰により、御霊によって、義をいただく望みを熱心に抱いているのです。キリスト・イエスにあつては、割礼を受ける受けたいは大事なことではなく、愛によって働く信仰だけが大事なのです。 (ガラ5・5、6)

そして時間をかけて神のことばを心に蓄えます。そのみことばを堅く握り締め、神には約束されたことを成し遂げることがおできになることを確信して疑いません。そして子どものような心で、主のみことばの輝かしい約束が成就さ

れるのを待ち望みます。その時、私の魂はこのみことばを体験します。

「主によって語られたことは必ず実現すると信じきった人は、何と幸いなのでしょうか。」 (ルカ1・45)

神は約束されます。私は信じます。神は成就されます。それが新しいいのちの秘訣なのです。

祈り

父なる神さま。私たちが歩むべき祝福された信仰の生活を感謝します。私には何もできませんが、あなたには不可能なことは何一つありません。あなたができることはすべて、みことばの中で語ってくださいました。私が受け取り、信頼をもってあなたのところへ持つて行くすべてのみことばを、あなたが成就してくださいませ。お父さま。信仰の生活はこんなに簡単で栄光あふれるものなのですね。私はその中をあなたと共に歩んでまいります。アーメン。

課題

一、キリスト者は神についての知識を増し加えるために、みことばを読んで、調べなければなりません。そのために聖書の中の一箇所かそれ以上を毎日読む必要があります。しかし、みことばを読むのは信仰を強めるためでもありま

す。そのためには一節か二節を特別に取り出して、黙想の課題としましょう。そして信頼を持ってそれらのみことを自分を適用するのです。

二、信仰が何か偉大で理解しがたいかのように話す人たちによって惑わされないようにしてください。信仰とは、神は真理を語られるということを確認する以外の何ものでもありません。神の約束を受け入れ、主にこう言いなさい。

「私はこの約束が真実であることと、あなたがそれを成就されることを確かに知っています」と。神は確かに成就されるのです。

三、不信仰を、唯一の手がつけられない弱さであるかのように、嘆いてはなりません。神の子どもとして、あなたがどんなに弱くても、神の霊があなたの内にあるのですから、あなたは信じる力を持っているのです。あなたはこれを維持するだけでよいのです。あなたはただしっかりとこのことを覚えていけばよいのです。信じる力がなければ何も理解することはできないのです。「神のことばは真理であることを確信します」と主に明瞭に告白し始め、告白し続けなければなりません。約束をしっかりと握りしめ、成就を待ち望んで、主により頼んで行くことではありませんか。

5 みことばの力

そのように、信仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリストについてのみことばによるのです。

(ロマ10・17)

ですから、すべての汚れやあふれる悪を捨て去り、心に植えつけられたみことばを、すなおに受け入れなさい。みことばは、あなたがたのたましいを救うことができます。

(ヤコ1・21)

こういうわけで、私たちとしてもまた、絶えず神に感謝しています。あなたがたは、私たちから神の使信のことばを受けるとき、それを人間のことばとしてではなく、事実どおりに神のことばとして受け入れてくれたからです。この神のことばは、信じているあなたがたのうちに働いているのです。

(1テサ2・13)

神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心のいろいろな考えやはかりごとを判別することができます。

(ヘブ4・12)

神の子どもの新しいのちは、神のみことばを正しく用いるかどうか大きく依存しているので、私は新しいキリスト者にここでもう一度そのことに関して言及したいと思えます。

キリスト者が信仰を通してのみ新しいのちを受け、それを完成することができるということに気づくことは偉大な発見です。神は約束したことを必ず成就されるということとを、私たちはただ信じなければならぬだけです。毎朝、イエスさまと私の内に働く新しいのちを信頼して認めるならば、新しいのちが主の約束されたことを成し遂げるように、イエスさまご自身が取り計らわれます。けれども今度は、もう一つのあやまちを犯す危険があります。こんなに偉大なことを成し遂げる信仰はそれなりに偉大でなければならぬと考え、そのような偉大な信仰を働かせるためには、私自身が大きな力を持たなければならぬと思ってしまうのです。

そして、このような力を感じないために、自分には正しい信じ方ができないのだと思ひ込んでしまいます。この間違った考えは、生涯持ち続けることになる可能性があるのです。このような考えがどんなに曲解していることなのかを考え悟ってください。みことばが成就されるために、このような力強い信仰が必要なのではなく、みことばがあなたの持つべき信仰を形成し強めるのです。「みことばは生きていて、力がある。」みことばがあなたの内に信仰を働かせてくれるのです。聖書は言っています。「信仰は聞くことから始まる」のです。

そのように、**信仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリストについてのみことばによるのです。**

(ロマ10・17)

神の宮である心と、その中にある二つの場所について、すでに話したことを思い出してください。そこには大庭があり、理解を入り口として入ります。心にはまた至聖所があり、信仰の門を通ってそこへ入ります。すべての人が持っている自然の信仰、歴史から学んだ信仰があります。まずそれによってみことばを自分の管理と考察の領域に取り入れます。

私は自分にこう言わねばなりません。「神のみことばは確かに真理です。私はそこにしっかりとどまることができません」と。このようにして私はみことばを大庭に導き入れ、心の中の願いがみことばに届きます。

その時みことばは神のいのちの力を働かせ、成長し始め、根を張り始めます。地面の下に蒔かれた種が徐々に地中深く根を張っていく時、みことばは聖所に向けて内側に押し進みます。

みことばはこのようにして真の救いに至る信仰をもたらします。

ですから、すべての汚れやあふれる悪を捨て去り、心に植えつけられたみことばを、すなおに受け入れなさい。みことばは、あなたがたのたましいを救うことができます。

(ヤコブ1・21)

新しいキリスト者の方々。このことを理解してください。みことばは生きていて力があります。みことばを通して私たちは生まれ変わったのです。みことばは私たちに信仰を

もたらします。みことばを通して信仰が刺激されるのです。

あなたに働きかけるみことばを単純に受け入れてください。みことばで自分自身が支配されるようにし、そして時聞をかけてください。みことばはそれ自身に神のいのちを宿しています。そのみことばをあなたの心の最も奥深いところへ持つて行ってください。そうすれば、そのみことばがあなたにいのちをもたらすようになるのです。みことばがあなたのうちに何事に対しても力強い強健な信仰をもたらします。

「私は信じることができない」と言わせる偽りの力に注意してください。信じることはできるのです。あなたは内に神の霊を宿しているのですから。生まれ変わる前の人でさえ、「この神のみことばは確かに真理です。」と言えるのです。その人が魂の願いを伴って、「みことばは真理です。わたしはみことばを信じます。」と言う時、生きた御霊（御霊を通してみことばが生き、力強くなる）が、生きた信仰に導いてくださいます。しかも、神の霊はみことばの中にあるだけではなくあなたの内にもあるのです。たとえあなたが自分は信じていると感じなくても、自分は確かに信じることができるのだということを知ってください。

彼らに言った。「あなたがたは、私が、きょう、あなたがたを戒めるこのすべてのことばを心に納めなさい。それをあなたがたの子どもたちにも命じて、このみおしえのすべてのことばを守り行なわせなさい。これは、あなたがたにとって、むなしいことばではなく、あなたがたのいのちであ

るからだ。このことばにより、あなたがたは、ヨルダンを渡って、所有しようとしている地で、長く生きることができ
る。」
(申32・46、47)

みことばを実際に受け取り始めてください。そうすればきつと力強い信仰があなたの内に働くでしょう。神のみことばによつて、私たちの信仰と共に力強く働く約束を得ているという事実
に信頼しましょう。

約束だけでなく、命令も生きた力を持っています。最初、私が神から命令を受けた時は、私にはそれを成し遂げる力が全くないと感じる
ものです。しかし、信じる者の内に働く神のことばとして、私がただ素直にそれを受け取るならば、そして私がいつもみことばに信頼してみことばの働きを受け取り、みことばを通してその働きを提供される生ける神に信頼するならば、神の命令が私の内に従順への願いと力とを生じさせてくださるのです。私が命令をしつかりと心に留めるとき、それは従いたいという願望と意志を生じさせます。命令は、私は父なる神が言われることを確か
にすることができるといふ確信に私を強く駆り立てます。みことばは信仰と服従の双方を力づける作用をします。

キリスト者の服従は信仰の服従です。聖霊を通して、私は神が望まれることを実行する力を持っているということ
を、私が信じなければなりません。なぜなら、みことばの中には神の力が私の内に働くからです。みことばは、私を愛してくださる生ける神の命令であり、私の力そのもの
のです。

みことばを教えられる人は、教える人とすべての良いものを分け合いなさい。
(ガラ6・6)

それゆえ、新しいキリスト者の友よ。神のみことばを深い信頼をもつて受け取ることを学びましょう。最初は理解できなくても、黙想し続けましょう。みことばはその中に生きた力を宿しています。みことばはそれ自身を栄化するのです。たとえ、あなたが信じ従う力を感じなくても、みことばは生きていて力があるのです。みことばを受け取り、しっかりと保ち続けてください。みことばは神の力でその働きを成し遂げるのです。みことばは信仰と服従を奮起させ強化するのです。

祈り

主なる神様。あなたがあなたのみことばの中にいのちと力を持つておられことと、あなたのみことば自身が、みことばを受け入れ保つ心の中に信仰と従順を強めてくださることとが少しずつ分かってきました。主よ、あなたのすべてのみことばを生ける種として私の心の中に保ち、あなたが喜ばれるすべての良いわざをみことばを通して私のうちに
なしてくださることを確信するように教えてください。

アーメン。

課題

一、覚えましょう。：：みことばを信じることと、みことばを語つておられる方を信じることと、みことばの中で約束されていることを信じることは一にして同じことなので

す。約束を受け取るのと同じ信仰が、約束される御父と、約束の中に与えられている救いをもたらす御子とを、受け取るのです。みことばと生ける御父を決して切り離して考えてはならないのです。

二、覚えましょう。：みことばを「人のことば」として受け取るのと、「信じるあなたの内に働く神のことば」として受け取るのには大きな違いがあります。

三、信仰において強くされるには何が必要か、もう分かったことでしょう。あなたが持っている限りの信仰を、可能な限り働かせてください。神の約束を受け取ってください。みことばは確かに真理であると自分自身に言いましょう。神のもとへ行き、みことばが成就されるのを主に信頼している主と告げましょう。神との交わりの中で約束を黙想し、それにしがみつきましょう。主が言われたことをあなたのためになしてください。主を主に依り頼みますように。主は必ず成し遂げてくださいます。

四、覚えましょう：御霊とみことばはいつも共存します。私がいなければならぬとみことばが言うすべてのことは、御霊を通して私は必ず実行できるのです。信じる私たちの内にも働くのが生ける神のみことばであるということとを信じて、私はみことばと命令を受け取らなければなりません。

6 神の贈り物である御子

神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

(ヨハ3・16)

ことばに表わせないほどの賜物のゆえに、神に感謝します。

(2コリ9・15)

このように神は愛をもってこの世界を支えておられます。どのくらい愛をもってでしょうか？この世のすべての人に対して、そのひとり子をお与えになったほどになります。どのように与えてくださったのでしょうか？私たちと永遠に共に与えさせるために、人間としての御子の誕生を通して、御子を与えてくださったのです。私たちの罪とのろいをご自身が身代わりとなつて背負うためになされた十字架の死を通して、御子を与えてくださったのです。天上のすべての権力を持つ私たちの代弁者またとりなし役として、私たちの世話をするために御国の王座において、御子を与えてくださったのです。私たちの内に住み、完全に私たちのものとなるために、御霊の注ぎを通して、御子を与えてくださったのです。

私たちすべてのために、ご自分の御子をさえ惜しまずに死に渡された方が、どうして、御子とייしよにすべてのものを、私たちに恵んでくださらないことがありましよう。

罪に定めようとするのはだれですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、私たちのためにとりなしていただくのです。

(ロマ8・32、34)

キリストのうちにこそ、神の満ち満ちたご性質が形をとって宿っています。そしてあなたがたは、キリストにあって、満ち満ちているのです。キリストはすべての支配と權威のかしらです。

(コロ2・9、10)

そうです。神が御子をお与えくださったために、私たちの中に、与えてくださった。これが神の愛なのです。ひとり子に劣る何物でもなかった。これが神の愛なのです。神は何かの品物をお与えくださったのではなく、生ける人を下さったのです。これがだめなら他のものがあるというような祝福ではなく、すべてのいのちと祝福の源であるイエスキリストがご自身をお与えくださったのです。赦し、リバイバル、聖め、栄光だけではなく、神ご自身のひとり子イエスキリストをお与えくださったのです。

主イエスキリストは御父にとつては最愛のひとり子であり、神と同質であり、腹心の友であり、永遠の祝福なのです。イエスキリストが神を所有しておられるように、私たちがイエスキリストを自分のものとして所有することは神のみこころでした。

わたしは彼らにおり、あなたはわたしにおられます。それは、彼らが全うされて一つとなるためです。それは、あな

たがわたしを遣わされたことと、あなたがわたしを愛されたように彼らをも愛されたこととを、この世が知るためです。：正しい父よ。この世はあなたを知りません。しかし、わたしはあなたを知っています。また、この人々は、あなたがわたしを遣わされたことを知りました。

(ヨハ17・23、25)

この目的のために、神は御子を私たちに与えてくださったのです。救いの全体は、イエスさまを受け取り、所有し、楽しむことから成り立っています。神は、御子が完全に私たちのものとなるために、御子を与えてくださったのです。

それでは私たちは何をしなければならないのでしょうか？主を自分のものとし、贈り物を受け取り、私用に供し、イエスさまを自分のものとして喜ぶために、私たちは何をしなければならぬのでしょうか？これが永遠のいのちなのです。

「御子を持つ者はいのちを持っているのです」

御子を持つ者はいのちを持っており、神の御子を持たない者はいのちを持っていません。 (1ヨハ5・12)

すべての新しいキリスト者がこの真理を理解してくださるよう、私はどんなに切望していることでしょうか。私たちに對する神の愛の大いなるみわざは、神がその御子を私たちに与えてくださることでした。御子の内に私たちはすべ

てを持っているのです。私たちの心の大きいなる働きとは、私たちに与えられたこのイエスさまを受け取り、御子が私たち自身のものであると考えて御子を専有することではなればなりません。

私たちは毎日をおんない思ひを持って始めねばなりません。私は私のためにすべてをなして下さるイエスさまを持っているのです。

わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです。

(ヨハ15・5)

しかしあなたがたは、神によってキリスト・イエスのうちにあるのです。キリストは、私たちにとって、神の知恵となり、また、義と聖めと、贖いとになりました。

(1コリ1・30)

あらゆる弱さ、暗闇、危険の中で、あらゆる願いや必要の中で、私たちの最初の考えを常にこのようにもっていきましよう。すなわち、私は私のためにすべてのことを最善にしてください。イエスさまを持っているのです。なぜなら神が私にイエスさまを与えてくださったからです。あなたの必要とされていることが赦しであらうと、慰めであらうと、確信であらうと、またはもしあなたが失敗したり、危険に陥り試みにあつているとしても、今抱えている問題に関し

てたとえ神の御心が何であるかがわからなくても、御心を行なう勇氣と力がないとわかっているとしても、この真理をまず最初に心に思い浮かべてください。御父は私にイエスさまを、私を保護するために与えてくださったのです！この目的のために、この神の贈り物に毎日自分のものとして頼ってください。みことばを通してあなたに与えられたのです。みことばを信じて、御子をあなたのものとしてください。あなたが御子を持つてという信仰を通して、イエスさまへの信仰を日々確かなものとしましょう。

私が神の御子の名を信じているあなたがたに対してこれらのことを書いたのは、あなたがたが永遠のいのちを持つて
いることを、あなたがたによくわからせるためです。

(1ヨハ5・13)

神の愛が御子を賜ったのです。主を受け取り、心から愛してしっかりと主につながり続けましょう。

子どもたちよ。あなたがたは神から出た者です。そして彼らに勝ったのです。あなたがたのうちにおられる方が、この世のうちにいる、あの者よりも力があるからです。

(1ヨハ4・4)

また、キリストがすべての人のために死なれたのは、生きている人々が、もはや自分のためではなく、自分のために死んでよみがえった方のために生きるためなのです。

(2コリ5・15)

それどころか、私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、いっさいのことを損と思っ
ています。私はキリストのためにすべてのものを捨てて、
それらをちりあくと思っています。(ピリ3・8)

新しいキリスト者の方々。このみことばに耳を傾けましょ
う。神はあなたにイエスさまを与えてくださいました。イ
エスさまはあなたのものです。受け取ることは信仰の実に
ほかなりません。贈り物はあなたのものです。イエスさま
がすべてをあなたのために成し遂げてくださるのです。

祈り

私の主イエスさま。今日も、そして毎日、私はあなたをお
受けします。あなたにすべてを満たされて、あなたとのあ
らゆる関係において、絶えることなく、あなたを自分のた
めに受け取ります。あなたは私の知恵であり、光であり、
導き手です。あなたを預言者として受け取ります。あなた
は私を神さまと完全に和解させて、私を神さまに近づけて
くださいました。あなたは私をきよめ、聖別し、私のため
に祈ってくださいます。あなたを祭司として受け取りま
す。あなたは私に道を示し、私を守り、祝福してください
ます。私はあなたを私の王としてお受けします。あなたは
私にとって、すべてのすべてであられ、完全に私のもので
す。ことばに言い表せないほどの賜物のゆえに、神に感謝
します。アーメン。

課題

一、「与える」ということばについて熟考しましょう。神はすばらしい方法で与えてくださいます。心から、全く無条件に、受ける値打ちのない者に与えてくださるのです。じつに効果的に与えられます。神がくださるものは、それを完全に私たちのものとしてくださるのではなく、言葉の通り私たちのために私の所有物としてくださいます。この真理を信じるならば、イエスさまが、御自身のもたらすもののすべてとともに、完全にあなたの所有となってくたさるという確信を得るでしょう。

二、また「受け取る」ということばについて熟考しましょう。イエスさまを受け取り、自分のものとしてしっかりと握って離さないことは私たちの大きな働きです。受け取ることは信頼することそのものであることを考えましょう。イエスさまとイエスさまに属するものはすべて私のものです。イエスさまを、イエスさまのすべてを、毎日あなたのものとして受け取りましょう。これが信仰生活の秘訣です。

三、「持つ」ということばを黙想しましょう。御子を持つ者はいのちを持つています。(1ヨハ5・12) 私が持っているものは私の所有物であり、私個人のためと奉仕のためのものです。それを豊かに享受することができます。「御子を持つ者はいのちを持つています。」

四、神が与えてくださったもの、あなたが受け取ったもの、そして今あなたが所有しているものは、神の生ける御子以下の何ものでもないことを深く心に留めてください。このことを、あなたは受け入れますか？

7 イエスさまご自身の明け渡し

夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられたように、あなたがたも、自分の妻を愛しなさい。キリストがそうされたのは、みことばにより、水の洗いをもって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、ご自身で、しみや、しわや、そのようなものの何一つない、聖く傷のないものとなった栄光の教会を、ご自分の前に立たせるためです。

(エペソ5・25〜27)

そのみわぎを成し遂げるためにはご自身のいのちを捨てなければならなかったほどに、イエスさまが罪人のために成就してくださったみわぎは、あまりにも偉大ですばらしいものでした。主が実にご自身を私たちのために、私たちに對して与えてくださったほどに、イエスさまの私たちに對する愛は、あまりにも偉大ですばらしいものでした。いのちを捨てて成就しようとしたことを、実際に完全に私たちに對して実現されたほどに、イエスさまの明け渡しは、あまりにも偉大ですばらしいものでした。聖なる全能の神イエスさまは、私たちのためにご自身をささげて、みわぎを成し遂げてくださったのです。

キリストは、今の悪の世界から私たちを救い出そうとして、私たちの罪のためにご自身をお捨てになりました。私たちの神であり父である方のみこころによったのです。

(ガラ1・4)

私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が、この世に生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです。

(ガラ2・20)

キリストが私たちのためにご自身をささげられたのは、私たちをすべての不法から贖い出し、良いわざに熱心なご自分の民を、ご自分のためにきよめるためでした。

(テト2・14)

そして今や私たちにとって必要な一事は、このイエス様の私たちへの明け渡しを私たちが理解して固く信じることだけです。

それでは、イエス様がご自身を教会のためにささげられたのは、どのような目的のためだったのでしょうか？神がなんと云っておられるかを聞きましょう。それは教会をきよめるためでした。それは教会を傷のないものとするためでした。

今は神は、御子の肉のからだにおいて、しかもその死によって、あなたがたをご自分と和解させてくださいました。それはあなたがたを、聖く、傷なく、非難されるところのない者として御前に立たせてくださるためでした。

(コロ1・22)

これがイエスさまの目的でした。これを自らの最高の願いとし、それを成就するためになされたイエスさまの明け渡しに信頼するキリスト者においては、この目的（教会をきよめ、傷のないものとする）をイエスさまが成就してくださいさるのです。

神のことばに静かに耳を傾けましょう。私たちのためにご自身をささげられた方が、私たちをすべての不法から贖い出し、良いわざに熱心なご自分の民を、ご自分のためにきよめてくださるのです。

キリストが私たちのためにご自身をささげられたのは、私たちをすべての不法から贖い出し、良いわざに熱心なご自分の民を、ご自分のためにきよめるためでした。

(テト 2・14)

そうです。イエスさまがご自身をささげられたのは、きよい民を、ご自分の民を、熱心な民を、ご自身のために用意するためでした。私が主を受け入れる時、これを成し遂げるために主がご自身を与えてくださったのは私のためであったことを信じる時、私は確かにこの約束の成就を体験するでしょう。イエスさまを通してきよめられ、イエスさまの所有としてしっかりと保たれ、イエスさまに仕える熱意と喜びに満たされるでしょう。

さらに、ご自身の明け渡しは私たちを完全にご自分のものとされるためでした。私たちをご自身の前に置かせるためであり、ご自身のために主の所有の民として私たちをきよめるためであったことに注目しましょう。イエスさまの私

への明け渡しを理解し黙想すればするほど、私は自分自身をもっと多く主にささげるようになります。明け渡しは主と私の間で相互になされることです。愛は互いに与え合うものです。イエスさまの明け渡しは私の心にあまりにも深い感動を与えるので、主と同じ愛と喜びに満たされた私の心は全く主のものとなるのです。主はご自身を私に与えることによつて、主ご自身が私を所有され、主は私のものとなり私は主のものとなるのです。私が主を完全に私のために所有しており、そして主が私を完全に主のために所有しておられることがわかるのです。

あなたがたのからだは、あなたがたのうちに住まれる、神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたは、もはや自分自身のものではないことを、知らないのですか。あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。ですから自分のからだをもって、神の栄光を現わしなさい。

(1コリ 6・19、20)

それでは、どのようにしたらこの祝福された生活を十分に楽しむことができるようになるのでしょうか？

イエスは答えて言われた。「あなたがたが、神が遣わした者を信じること、それが神のわざです。」

イエスは言われた。「わたしがいのちのパンです。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者はどんなときにも、決して渇くことはありません。」

(ヨハ 6・29、35)

私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私
が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きてお
られるのです。いま私が、この世に生きているのは、私を
愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる
信仰によっているのです。

(ガラ2・20)

信仰を通して、イエスさまの私への明け渡しがどんなに確
かで栄光あることであるかを黙想します。信仰を通して、
私はそれを自分のものとします。信仰を通して、この明け
渡しが確かなものであることを確認するために、イエスさ
まがご自身を私に知らせご自身を私に現わしてくださいと
を信じます。信仰を通して、豊かな救いの体験を確信し
て待ち望みます。それは、イエスさまを私が自分のものと
して所有しており、イエスさまが私のためにすべてをなし
てくださると確信することです。私を愛し、ご自身を私の
ために与えてくださったこのイエスさまの内に、信仰を通
して私が住んでいるのです。

そして私は言います。「もはや私が生きているのではな
く、キリストが私のうちに住んでおられるのです。」キリ
スト者の友よ。イエスさまがご自身をあなたに与えておら
れることと、主が完全にあなたのものであり、主があなた
のためにすべてを成し遂げてくださることを心から信じま
しょう。

しかし、イエスは女に言われた。『あなたの信仰が、あな
たを救ったのです。安心して行きなさい。』

(ルカ7・50)

彼は、不信仰によって神の約束を疑うようなことをせず、
反対に、信仰がますます強くなって、神に栄光を帰し、神
には約束されたことを成就する力があることを堅く信じま
した。

(ロマ4・20、21)

こうしてキリストが、あなたがたの信仰によって、あなた
がたの心のうちに住んでいてくださいますように。

(エペ3・17)

祈り

私の主イエスさま。あなたがご自身を私に与えてくださっ
たことは、何という素晴らしい恵みでしょうか。あなたは
永遠のいのちです。あなたはいのちであり、あなたは私が
日々のあゆみの中で必要とするすべてとなるために、ご自
身を与えてくださいました。あなたは私の汚れを取り除
き、私を清め、よい働きをするために熱心な者としてくだ
さいます。あなたは私を完全にあなたのものとし、ご自身
を完全に私のために与えてくださいます。そうです。主
よ。すべてにおいてあなたは私のいのちです。この真理を
理解できるように助けてください。アーメン。

課題

一、御父が御子を与えてくださったのは主の大きい愛の中でありました。イエスさまがご自身を与えてくださったのは愛からでした。イエスさまを受け取り所有することは、神の愛の中にある生活に至る門であり、これが最高の生活です。

わたしの戒めを保ち、それを守る人は、わたしを愛する人です。わたしを愛する人はわたしの父に愛され、わたしもその人を愛し、わたし自身を彼に現わします。

(ヨハ14・21)

信仰を通して、私たちは神の愛にすがりつき、その中にとどまらねばなりません。

私たちは、私たちに対する神の愛を知り、また信じています。神は愛です。愛のうちにいる者は神のうちにおり、神もその人のうちにおられます。

愛には恐れがありません。全き愛は恐れを締め出します。なぜなら恐れには刑罰が伴っているからです。恐れる者の愛は、全きものとなっていないのです。

(1ヨハ4・16、18)

二、「今日も私のいのちとなり、私のためにすべてを成し遂げてくださるイエスさまをお迎えします」このような祈りとともに、子どものような信頼をもって、毎日始めることを学びましたか？

三、イエスさまを受け取り、所有することはイエスさまとの個人的な関係が前提となっていることを理解してください。イエスさまの内に喜びを見いだすこと、イエスさまと交わること、自分の友としてのイエスさまとその愛を喜ぶこと、——これこそが、イエスさまを心から受け取る信仰へと私たちを導くのです。

8 神の子ども

しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。

(ヨハ1・12)

贈り物は受け取らねばなりません。そうでないと役にもたちません。神の愛の最初の偉大な愛のみわざが御子という贈り物であるならば、人間が最初にすべきことは御子を受け取ることです。神の愛の祝福のすべてが、生ける御子を通してのみ与えられるのだとすれば、これらすべての祝福は、いつも新たに絶え間なく御子を受け取ることによって、日々私たちの内に入ってくるのです。

あなたはすでに主イエスさまを受け入れたので、受け入れるためには何が必要かを知っています。けれども、御子を受け取ることが意味することのすべてが、さらに明確で強いものとなり、あなたの信仰生活の中で生きた絶え間ない行為とならなければなりません。

兄弟たち。あなたがたのことについて、私たちはいつも神に感謝しなければなりません。そうするのが当然なのです。なぜならあなたがたの信仰が目に見えて成長し、あなたがたすべての間で、ひとりひとりに相互の愛が増し加わっているからです。

(2テサ1・3)

私たちが成長するためには、私たちの信仰が増し加わらなければなりません。あなたは最初、イエスさまがあなたへの贈り物であるというみことばが自分に与えられたという確信に基づいて、イエスさまを受け入れました。みことばを通して、キリストの中にあるものはすべて、文字通り、しかも実際に、あなたのいのちとなるために御父によってあなたに与えられたものであるという確信で、あなたの生活がなお一層満たされなければなりません。

あなたが最初にイエスさまを受け入れたのは、あなたがその願いと必要性に促されたからです。聖霊を通してあなたはさらに貧しくされ、あなたがいかにイエスさまをあらゆる点でいつも必要としているかを、より強烈に理解するようになるのです。このイエスさまへの渴望が、主をあなたのすべてとして絶え間なく、繰り返して受け取る生活へと、あなたを導くのです。

心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人のものだからです。

(マタ5・3)

あなたがたは、このように主キリスト・イエスを受け入れたのですから、彼にあって歩みなさい。

(コロ2・6)

あなたが最初に受け取ったものはまさに、まだ見たことも感じたこともないことを、信仰によって自分のものとしたことにあるのです。この同じ信仰には、「イエスさまの内に見いだすものはすべて私のものです。まだそれを経験したことはありませんが、私のものとして受け取ります」と

言う訓練が、絶えず必要なのです。神の愛とは聖体を受け
ることであり、魂に生ける主の光が絶え間なく降り注がれ
ることであり、イエスさまという非常に強力な真実の贈り
ものなのです。私たちの信仰生活とは、絶えず主をよりよ
く知り、受け取ることにほかなりません。

私たちはみな、この方の満ち満ちた豊かさの中から、恵み
の上にさらに恵みを受けたのである。(ヨハ1・16)

キリストのうちにこそ、神の満ち満ちた性質が形をとっ
て宿っています。そしてあなたがたは、キリストにあっ
て、満ち満ちているのです。キリストはすべての支配と権
威のかしらです。(コロ2・9、10)

そしてこれこそが神の子どもとしての生き方です。人が主
を受け入れるほどに、神の子どもとされる力を主が与えて
くださるのです。改心した時だけではなく、私の日々のあ
ゆみにおいても同じことが言えます。すべてのことにおい
て神の子どもとして歩み、御父の姿を反映することが不可
欠であるとするならば、私は神のひとり子イエスさまを受
け取らねばなりません。

私を神の子どもとしてくださるのはイエスさまなのです。
イエスさまご自身を持つこと、そして心と生活がイエスさ
まのご臨在で満たされること、これが神の子どもとしての
生き方です。私はみことばを開いて、神の子どもとしての
すべてについて学びます。

このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせ、人々が
あなたがたの良い行ないを見て、天におられるあなたがた
の父をあがめるようにしなさい。(マタ5・16)

しかし、わたしはあなたがたに言います。自分の敵を愛
し、迫害する者のために祈りなさい。それでこそ、天にお
られるあなたがたの父の子どもになれるのです。天の父
は、悪い人にも良い人にも太陽を上らせ、正しい人にも正
しくない人にも雨を降らせてくださるからです。

(マタ5・44、45)

それは、あなたがたが、非難されるところのない純真な者
となり、また、曲がった邪悪な世代の中にあって傷のない
神の子どもとなり、いのちのことばをしっかりと握って、彼
らの間で世の光として輝くためです。そうすれば、私は、
自分の努力したことがむだではなく、苦労したこともむだ
でなかったことを、キリストの日に誇ることができます。

(ピリ2・15、16)

イエスがキリストであると信じる者はだれでも、神によっ
て生まれたのです。生んでくださった方を愛する者はだれ
でも、その方によって生まれた者をも愛します。神を愛す
るとは、神の命令を守ることです。その命令は重荷とはな
りません。(1ヨハ5・1、3)

そしてそれぞれのみことばの後に私はこのように書きま
す。「このイエスさまが私の内に働いておられます。私を

神の子どもとしてくださるイエスさまを私は所有していません」と。

愛する新しいキリスト者の方々。真実のキリスト者であることの単純さと栄光を理解することを学びましょう。それは、イエスさまを受け取ることです。万事に主が満ち溢れた状態で、主を受け取ることです。御父があなたにイエスさまを与えてくださったあらゆる輝かしい関係で、イエスさまを受け取ることです。主をあなたの預言者として、あなたの知恵として、光として、導き手として受け取りましょう。あなたを新しくし、あなたをきよめ、あなたを聖別し、あなたを神に近づかせ、あなたを捕らえ、みわざのためあなたを造り変えてくださるイエスさまを、あなたの祭司として受け取りましょう。あなたを統べ治め、あなたを守り、あなたを祝福される、あなたの王としてイエスさまを受け取りましょう。あなたの主人として、あなたの模範として、あなたの兄として、あなたのいのちとして、あなたのすべてとして受け取りましょう。

神が与えたもうものは神聖で、とどまることなく、あなたの魂に有効に伝達されます。幼子のように喜んで、絶えず口と心を開いて、神が与えてくださるものであるイエスさまのすべてと、主のすべての祝福を受け取りましょう。すべての祈りに対する神の答えは主イエスさまであり、主の内にすべてがあり、主の内にあるすべてはあなたのために用意されているのです。

どんな質問であろうと、イエスさまの内に答えを見いだすようにしましょう。主の内に私はすべてを持っているので

す。あなたはイエス・キリストを信じる信仰によって、神の子どもとしてすべてのことの中に生きるのです。

祈り

父なる神さま。私の心の目を開いて、神の子どもであるとはどう言うことなのかを理解させ、あなたのひとり子であるイエスさまをいつも信頼して、常に神の子どもとして生きる事ができるようにしてください。私の魂が一瞬一瞬、イエスさまに信頼し、イエスさまにお任せし、イエスさまの中に休息し、イエスさまに身をゆだねて、すべてのみわざが私の身になされますように。アーメン。

課題

一、覚えましょう：御父が私たちのために備えてくださったものはすべてイエスさまの内にあります。私たちは絶えず新しく、たゆまず御子を受け取らなければなりません。

二、神の子どもとして生きるための唯一の方法は何ですか？

9 自己放棄

(イエスさまへの私の明け渡し)

そして、私たちの期待以上に、神のみこころに従って、**まず自分自身を主にささげ、また、私たちにもゆだねてくれました。**

(2コリ8・5)

イエスさまの私への明け渡しの基本原理は、イエスさまが私のためにすでに成し遂げてくださったことと、これからもいつも私のためにしてくださることなのです。一方、イエスさまへの私の自己放棄(明け渡し)は、主が私にしてほしいと願っておられることが基本原理となります。イエスさまに自分自身をゆだねたばかりの新しいキリスト者にとって、この自己放棄をいっしょかりと保ち、それを確実なものとし更新することがとても大切です。「主に従い主に仕えるために、私は主に自分自身をささげました。」と日々新たに言うことこそが信仰の生活です。

彼らはすぐに舟も父も残してイエスに従った。

(マタ4・22)

弟子はその師にまさらず、しもべはその主人にまさりませぬ。弟子がその師のようになれたら十分だし、しもべがその主人のようになれたら十分です。彼らは家長をベルゼブルと呼ぶぐらいですから、ましてその家族の者のことは、**何と呼ぶでしょう。**

(マタ10・24、25)

わたしよりも父や母を愛する者は、わたしにふさわしい者ではありません。また、わたしよりも息子や娘を愛する者は、わたしにふさわしい者ではありません。自分の十字架を負ってわたしについて来ない者は、わたしにふさわしい者ではありません。

(マタ10・37、38)

自分のいのちを愛する者はそれを失い、この世でそのいのちを憎む者はそれを保って永遠のいのちに至るのです。わたしに仕えるというのなら、その人はわたしについて来なさい。わたしがいる所に、わたしに仕える者もいるべきです。もしわたしに仕えるなら、父はその人に報いてくださいます。

(ヨハ12・25、26)

また、キリストがすべての人のために死なれたのは、生きている人々が、もはや自分のためではなく、自分のために死んでよみがえった方のために生きるためなのです。

(2コリ5・15)

イエスさまは私を捕らえてくださいました。私は主のものであり、完全に主に仕えるものです。

新しいキリスト者の方々。あなたの自己放棄をしっかりと、揺るぎないものとしてください。たとえ主に自らをゆだねた後でつまずいたり罪を犯したとしても、それはあなたの自己放棄が不真実なものであったからだなどと思つてはなりません。イエスさまへの自己放棄は、一瞬のうちに私たちを完全にするわけではありません。あなたが罪を犯

したのは、主の御腕の中に完全にしつかりと抱かれていなかったからです。たとえそれが恥ずかしくても、次のことを再び確実なものに（再確認）してください。「主よ、私
が自分をあなたにおささげしたことをあなたはご存じです。私はあなたのものです」と。

イエスは三度ペテロに言われた。「ヨハネの子シモン。あなたはわたしを愛しますか。」ペテロは、イエスが三度「あなたはわたしを愛しますか。」と言われたので、心を痛めてイエスに言った。「主よ。あなたはいつさいのことをご存じです。あなたは、私があなただを愛することを知っておいでになります。」イエスは彼に言われた。『わたしの羊を飼いなさい。』（ヨハ21・17）

この自己放棄をもう一度確かなものにしてください。主への自己放棄がどんなに徹底していなければならぬか、そして自発的に完全にかつ専心日々新たに、自分自身を主にささげなければならぬかを、より明確に理解できたことを主に伝えましょう。

すると、ペテロが言った。「ご覧ください。私たちは自分の家を捨てて従ってまいりました。」（ルカ18・28）

キリスト者として成長するにつれて「イエスさまへの自己放棄」ということばへの洞察力が深まります。私たちがこのことばをまだ十分には理解し熟考していないことがより明らかになるのです。自己放棄はとりわけ、より徹底した、信頼深いものとなる必要があります。アハブがかつて

口にしたことばが私たちのことばとならなければなりません。「あなたが言われるとおりです。私と私が持っているものはすべてあなたのものです。」（1列20・4）と。「私と私が持っているものはすべてあなたのものです。」とは徹底した献身のことばです。何一つ隠しごとはありません。一つの罪も隠さずに告白し、捨て去りましょう。悔い改めを伴わない自己放棄は存在し得ません。

わたしに向かって、『主よ、主よ。』と言う者がみな天の御国にはいるのではなく、天におられるわたしの父のみこころを行なう者がはいるのです。

雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけると、倒れてしまいました。しかもそれはひどい倒れ方でした。（マタ7・21、27）

それにもかかわらず、神の不動の礎は堅く置かれていて、それに次のような銘が刻まれています。「主はご自分に属する者を知っておられる。」また、「主の御名を呼ぶ者は、だれでも不義を離れよ。」
ですから、だれでも自分自身をきよめて、これらのことを離れるなら、その人は尊いことに使われる器となります。すなわち、聖められたもの、主人にとって有益なもの、あらゆる良いわざに間に合うものとなるのです。

（2テモ2・19、21）

あなたの持てる少しの力も惜しんではなりません。あらゆる思いを伴うあなたの頭、あらゆることばを伴うあなたの口、あらゆる感情を伴うあなたのこころ、あらゆる働きを

伴うあなたの手、あなたの時間、あなたの名前、あなたの影響力、あなたの財産、それらすべてを祭壇の上におくのです。

そういうわけですから、兄弟たち。私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします。あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。

(ロマ12・1)

また、キリストがすべての人のために死なれたのは、生きている人々が、もはや自分のためではなく、自分のために死んでよみがえった方のために生きるためなのです。

(2コリ5・15)

主イエスさまがすべてに対して権利を持っておられ、主はそれらすべてを要求されます。主によって導かれ、用いられ、守られ、聖められ、祝福されるために、あなた自身とあなたに属するものすべてをささげてください。「あなたが言われるとおりです。私と私が持っているものはすべてあなたのものです。」と。

これは神への信頼に満ちた献身を示すことばです。あなたに自分自身を明け渡すように要求したのは神のみことばです。みことばはイエスさまがあなたを受け取り、導き、守られることを保証しています。あなたが自分自身をささげれば必ずイエスさまはあなたを受け取り、主が受け取られたものは必ず守ってくださいなのです。けれどもイエスさま

の御手から再びそれを取り戻そうとしてはなりません。永久にそのままにしておきましょう。あなたの明け渡しはイエスさまにとつて最高の喜びであることを覚えていきましょう。あなたのささげものが香り良いものとなっていくようにしてください。このように自己放棄(明け渡し)を語るのは、あなたの状態や、あなたの経験したことや、あなた自身の内に発見したことによってではなく、神のみことばによるのです。

みことばによって次の約束に立つことができます：あなたが差し出したものを主は受け取られ、主が受け取られたものは主が守ってくださいなのです。

わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。彼らは決して滅びることがなく、また、だれもわたしの手から彼らを奪い去るようなことはありません。

(ヨハ10・28)

ですから、次のことが、あなたの信仰生活において日々子どものような喜びにあふれたものとなるようにしてください。あなたは絶えずイエスさまに自分自身を明け渡します。そして主が神の愛であなたを受け入れ堅く守ってくださいることと、あなたの明け渡し(自己放棄)に対して、新たにされた常により深いご自身の明け渡しで主が応答してくださることは確かな事実なのです。

祈り

私の主であり王であられるイエスさま。あなたのみことばによれば、私と私がついているものはすべてあなたのもので、私は私のものではなくて主のものであることを、日々今日も確認いたします。私のすべてを完全にあなたのものとして用いてくださるように切にお願いいたします。そして、私があるものであることを誰も疑うことがないようにしてくださいますように。アーメン。

課題

一、「与える、ささげる」「受け取る」「持つ、所有する」ということばをもう一度黙想しましょう。私がイエスさまにささげた（与える）ものを、イエスさまは聖なる御手の中に受け取ってくださいます。主が受け取られたものは主がいつまでも面倒を見てくださいます。それ（ささげたもの）はもはや完全に私のものではありません。それについて思い出しはならないし、それを何とかしようとしてはいけないのです。あなたの信仰が崇敬の念をもつて、「イエスさまが私を受け取ってくださいました！イエスさまが私を所有していただくのです！」と言うことができるようにしましょう。

二、万一、主があなたを受け入れてくださったという確信が失われたように思えるような疑いや迷いの時が襲ってきても、それによって自分自身が落胆するのを許してはなりません。あなたの生活に罪があるのならばそれを告白し

て、主がご自身のもとへ来る者を決して捨てないと言われた主の約束を信じてください。そして単純にその約束に立つて告白し始めましょう。「主が私を受け入れてくださったことを私は知っています。」と。

三、明け渡し（自己放棄）において一番大切なことを忘れてはなりません。それはイエスさまとイエスさまの愛に対する明け渡し（自己放棄）です。その際、あなたの自己放棄の行為そのものではなく、あなたを召し、あなたを受け取り、あなたのためにすべてを成就してくださったイエスさまに目を留めましょう。これこそが信仰を強くするのです。

四、信仰はいつも自己放棄を意味します。信仰は見えないものを見るための目です。私がかを見る時には自分の目に映る印象をそのまま疑わずに受け入れます。信仰は神の御声を聴くための耳です。私がメッセージを信じる時は、そのメッセージが私を元気づけたり悲しませたりする影響に自分自身をゆだねます。私がイエスさまを信じる時は、自分自身の思い、願い、期待を主にゆだねます。それはイエスさまが私の内におられ、イエスさまが私のために天の父からゆだねられたことを成就してくださるためです。

10 罪からの救い主

マリヤは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方こそ、ご自分の民をその罪から救ってくださる方です。
(マタ1・21)

キリストが現われたのは罪を取り除くためであったことを、あなたがたは知っています。キリストには何の罪もありません。だれでもキリストのうちにとどまる者は、罪のうちを歩みません。罪のうちを歩む者はだれも、キリストを見てもいないし、知ってもいないのです。

(1ヨハ3・5、6)

私たちの惨状の原因は罪です。神を怒らせ、人間に呪いをもたらしたのは罪です。神は徹底的に罪を憎まれ、罪を根絶やしにするためにはあらゆることをなさいます。

「このみおしえのことばを守ろうとせず、これを実行しない者はのろわれる。」民はみな、アーメンと言いなさい。

(申27・26)

それでわたしはあなたがたに、わたしのしもべであるすべての預言者たちを早くからたびたび送り、どうか、わたしの憎むこの忌みきらいすべきことを行なわないように、と言ったのに、彼らは聞かず、耳も傾けず、ほかの神々に香をたいて、その悪から立ち返らなかつた。

(エレ44・4、5)

キリストに対するこの望みをいだく者はみな、キリストが清くあられるように、自分を清くします。

罪のうちを歩む者は、悪魔から出た者です。悪魔は初めから罪を犯しているからです。神の子が現われたのは、悪魔のしわざを打ちこわすためです。
(1ヨハ3・3、8)

神は私たちを、罰と呪い不安や恐れからだけでなく、罪そのものから解放してくださいます。

父なる神の予知に従い、御霊の聖めによって、イエス・キリストに従うように、またその血の注ぎかけを受けるように選ばれた人々へ。どうか、恵みと平安が、あなたがたの上にもますます豊かにされますように。
(1ペテ1・2)

私たちの罪を取り除くためにイエスさまが現れてくださったことを、私たちは知っています。私たちの罪を取り除いてくださるのは神様であるということを、心に深く受け止めましょう。それを明確に理解すればするほど、私たちの生活はより祝福されたものになります。

すべての人がこの真理を理解するわけではありません。理解しない人たちは、とりわけ罪の結果や恐れ、暗闇、罪がもたらす罰などから自由になることを求めるだけなのです。

わたしの好む断食、人が身を戒める日は、このようなものだろうか。葦のように頭を垂れ、荒布と灰を敷き広げることとだけだろうか。これを、あなたがたは断食と呼び、主に

喜ばれる日と呼ぶのか。わたしの好む断食は、これではないか。悪のきずなを解き、くびきのなわめをほどこき、しいたげられた者たちを自由の身とし、すべてのくびきを砕くことではないか。
(イザ58・5、6)

イエスは答えて言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。あなたがたがわたしを捜しているのは、しるしを見たからではなく、パンを食べて満腹したからです。
(ヨハ6・26)

彼らは、救いが与える真の安息に入ることはないのです。救いとは罪からの解放であることを、彼らは理解しません。このことをしっかりと把握しましょう。イエスさまは、罪を取り除くことによつて私たちを救われるのです。そこで、私たちは二つのことを学ぶ必要があります。第一は、すべての罪を持ったままでイエスさまのもとに来ることです。

私は、自分の罪を、あなたに知らせ、私の咎を隠しませんでした。私は申しました。「私のそむきの罪を主に告白しよう。」すると、あなたは私の罪のとがめを赦されました。
(詩32・5)

あなたが主に自分自身をささげた後に、なおもあなたを攻撃し圧倒しようとする罪に失望させられではありません。自分の力で罪を取り除き、これに打ち勝とうと試みてもいきません。イエスさまのもとに、あらゆる罪を持って行き

ましよう。イエスさまは、罪を取り除くために神によって任命されました。イエスさまは、すでに十字架の上で罪の働きを無効にし、その力を打ち砕かれたのです。

もしそうでなかったら、世の初めから幾度も苦難を受けなければならなかったでしょう。しかしキリストは、ただ一度、今の世の終わりに、ご自身をいけにえとして罪を取り除くために、来られたのです。
(ヘブ9・26)

あなたを罪から解放するのは、イエスさまのみわざであり、イエスさまの願いです。いつでもあらゆる罪をもつてイエスさまのもとへ行くことを学びましょう。罪は私たちに死に至らせる「敵」です。けれども、私たちが罪をイエスさまに告白し、イエスさまにそれを委ねてしまうならば、私たちは必ず罪に打ち勝つことができます。

なぜなら、キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、あなたを解放したからです。
(ロマ8・2)

以上の事実をかたく信じることを学んでください。

第二のポイントはこれです。イエスさまご自身が罪からの救い主であることを理解しましょう。イエスさまの助けを借りて私たちが罪に打ち勝つのではなくて、イエスさまご自身が、すなわち、私たちの内におられるイエスさまが罪に勝利されるのです。

もし罪から離れ、全き救いを喜びたいと私たちが願うなら、イエスさまとの豊かな交わりにとどまることを、生活の中で最優先にすることです。誘惑に陥ってしまうまで放っておいてはなりません。そうなる前に、私たちの生活が、いつもイエスさまの御手の中にあるようにしましょう。イエスさまの近くにいることを、私たちの最大の願いとするのです。イエスさまは罪から救ってくださいます。イエスさまを所有することとは、罪から救われていることを意味するのです。

あなたがたはすでに死んでおり、あなたがたのいのちは、キリストとともに、神のうちに隠されてあるからです。ですから、地上のからだの諸部分、すなわち、不品行、汚れ、情欲、悪い欲、そしてむさぼりを殺してしまいなさい。このむさぼりが、そのまま偶像礼拝なのです。

(コロ3・3、5)

どうかこのことが正しく理解できますように！イエスさまはただ時々行われるみわざとして罪から救われるということではなく、私たちに對して、また私たちの中において、ご自身を通しての祝福として、罪から救ってくださいます。

もしキリストがあなたがたのうちにおられるなら、からだは罪のゆえに死んでいても、霊が、義のゆえに生きています。

(ロマ8・10)

イエスさまが私を満たされる時、イエスさまが私にとってすべてである時、罪は私を制することができません。

「だれでもキリストのうちにとどまる者は、罪のうちに歩みません。」

(1ヨハ3・6)

そうです。罪はイエスさまのご臨在によってのみ追放され締め出されるのです。イエスさまご自身がご自分を私に与えてくださり、私の内に生きていてくださることによって、罪からの救いとなってくださいましたのです。

祈り

尊い主よ。あなたの光を私に降り注いでください。あなたが、あなただけが、私の救いであることを、私の魂がさらに明確に理解できるようにしてください。あなたを私の内に所有することが、罪を締め出します。あらゆる罪をあなたのもとへ持つて行くことを、私に教えてください。それらの罪が、あなたとのより深い一致へと、私を駆り立てるものでありますように。あなたの御名にこそ、私の罪からの救いがあるのです。アーメン。

課題

一、キリスト者が絶えず自分の罪を示されつつ成長することの大切さについて考えましょう。

二、罪を認識するためには三つの要件があります。

① 絶えず祈ることです。

「私を探り、私の罪と咎を知らせてください」と。私の不義と罪とはどれほどでしょうか。

私のそむきの罪と咎とを私に知らせてください。

(ヨブ13・23)

神よ。私を探り、私の心を知ってください。私を調べ、私の思い煩いを知ってください。私のうちに傷のついた道があるか、ないかを見て、私をこのしえの道に導いてください。

(詩139・23、24)

② 聖霊を通して喜んで罪を確信させられようとするやわらかい良心。聖霊もまた同じ目的のために人間の良心を用いられるのです。

③ みことばへの謙遜な明け渡し。罪に関しては神と同じ思いを持つことです。

三、罪に関するより深い知識は、以下の結果に見出されません。

① 以前は罪だとは考えなかったことを、罪と呼ぶようになります。

② 罪の忌み嫌うべき性質を、より敏感に罪深いものと認めるようになります。

では、この良いものが、私に死をもたらしたのでしょうか。絶対にそんなことはありません。それはむしろ、罪な

のです。罪は、この良いもので私に死をもたらすことになって、罪として明らかにされ、戒めによって、極度に罪深いものとなりました。

(ロマ7・13)

③ 私たちの外側の罪を克服するにつれて、神に敵対する、私たち自身の肉にある敵意をも確信するようになります。自分の力では罪を克服できないことがわかるようになります。ですから、私たちは、良い人間になろうとか、何か良いことをしようとする希望を捨て、聖霊によって、信仰に生きるように完全に変えられるのです。

四、イエスさまが罪からの救い主であることを、心から神に感謝しましょう。私たちを縛っていた罪の力を、今はイエスさまが縛っておられます。罪が占めていた心を、今はイエスさまが占めておられます。

「キリスト・イエスにあるいのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、私を解放したのです。」 (ロマ8・2)

11 罪の告白

もし、私たちが自分の罪を言い表わすなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。
(1ヨハ1・9)

神が最も嫌われること、神を悲しませること、神が怒られること、そして神が必ず滅ぼしてしまわれるもの、それは罪です。人間を最も不幸にするもの、それは罪です。

主は、地上に人の悪が増大し、その心に計ることがみな、いつも悪いことだけに傾くのをご覧になった。それで主は、地上に人を造ったことを悔やみ、心を痛められた。
(創6・5、6)

山や岩に向かってこう言った。「私たちの上に倒れかかって、御座にある方の御顔と小羊の怒りとから、私たちをかくまってくれ。御怒りの大いなる日が来たのだ。だれがそれに耐えられよう。」
(黙6・16、17)

イエスさまがご自身の血を流さなければならなかったのは、私たちの罪のためでした。罪人と神とのあらゆる関係において、罪人がまず第一に神のところに持って行かなければならないものは、自分自身の罪です。

(エズラは主に祈って) 言った。「私の神よ。私は恥を受け、私の神であるあなたに向かって顔を上げるのも恥ずかしく思います。私たちの咎は私たちの頭より高く増し加わり、私たちの罪過は大きく天にまで達したからです。」
(エズ9・6)

私たちが初めてイエスさまのもとへ来た時、この罪についてある程度は理解していたことでしょう。けれども私たちは、この問題をもっと深く理解するために学ぶ必要があります。罪に関して最も大切な助言を一つ与えるとすれば、それは罪を取り去ることのできる唯一のお方、神ご自身のところへ直ちに罪を持って行きなさい、ということですよ。罪の告白は、神の子どもに与えられている最もすばらしい特権の一つであることを、私たちは学ぶべきです。神の聖さだけが、罪を焼き尽くすことができるのです。告白することによって、神に私の罪を手渡し、神のもとにそれを捨て置き、神の御前でそれを放棄し、罪を焼き尽くす火のように燃え盛る神の聖い愛の炉に投げ込んでしまえます。神だけが、そうです神ご自身だけが、罪を取り除くことができます。

ダビデはナタンに言った。「私は主に対して罪を犯した。」ナタンはダビデに言った。「主もまた、あなたの罪を見過ごしてくださった。あなたは死なない。」
(2サム12・13)

私は、自分の罪を、あなたに知らせ、私の咎を隠しませんでした。私は申しました。「私のそむきの罪を主に告白しよう。」すると、あなたは私の罪のとがめを赦されました。
(詩32・5)

多くのキリスト者はこれが理解できないのです。一般的傾向として、神に近づこうとする時だけ、罪を覆い隠そうとしたり、罪を小さくしようとしたり、罪を根絶しようとするのです。彼らは過度の悔い改めや自己非難をすることによって、或いは襲ってくる誘惑を軽蔑することによって、さもなければ過去のよい行ないや今したいと願っていることを持ち出してきて、罪を覆い隠そうとします。

人は言った。「あなたが私のそばに置かれたこの女が、あ
の木から取って私にくれたので、私は食べたのです。」

(創3・12)

新しいキリスト者の方々、もしあなたが完全な赦しと罪からのきよめの喜びを享受したいのなら、罪の告白を正しく用いることを確実にしましょう。真実な罪の告白は、神の子どもが持つ最もすばらしい特権の一つであり、力強い霊的生活の最も深い土台の一つなのです。それゆえ、あなたの(罪の)告白を明確なもの(具体的なもの)としましょう。

それは、私たちがあなたの御前で多くのそむきの罪を犯し、私たちの罪が、私たちに不利な証言をするからです。私たちのそむきの罪は、私たちとともにあり、私たちは自分の咎を知っている。私たちは、そむいて、主を否み、私たちの神に従うことをやめ、しいたげと反逆を語り、心に偽りのことばを抱いて、つぶやいている。
(イザ59・12、13)

何度も繰り返される、曖昧な罪の告白は、百害あつて一利なしです。自分も知らないことを、ただ告白しようとするよりも、「何も告白することがありません」と正直に神に話す方が、はるかに優っています。まず一つの罪から始めましょう。この一つの罪に関して、神とあなたの間で完全な一致があるようにしなければなりません。告白することによって、この罪が神の御手の中に移されたということをしつかり認識してください。真実の告白には力と祝福があることを、きつとあなたは経験するでしょう。

正直に告白しましょう。

自分のそむきの罪を隠す者は成功しない。それを告白して、それを捨てる者はあわれみを受ける。

(箴28・13)

告白は真実なものであるようにしましょう。罪深い行いを捨て去るために、告白によって引き渡さない。神を信頼するために、告白によって罪深い感情を捨てましょう。告

白は、罪の放棄を意味します。神様があなたを赦し、罪から聖めるために、あなたの罪を放棄してください。もし、あなたが準備不足で、心より罪から解放されたいと思っていないのなら、罪を告白してはいけません。告白は、罪を神に委ねることで、初めて価値を持つのです。

信頼して告白しましょう。

私は、自分の罪を、あなたに知らせ、私の咎を隠しませんでした。私は申しました。「私のそむきの罪を主に告白しよう。」すると、あなたは私の罪のとがめを赦されました。

(詩32・5)

あなたを赦し、あなたを罪からきよめてくださる神に信頼しましょう。絶えず罪を告白し、あなたが捨てたいと願うその罪を、神のきよい火の中に投げ入れて、罪を捨てましょう。そうすれば、やがて、神ご自身が赦しきよめてくださるという揺るがない確信を、あなたの魂が持つようになるのです。この信仰、すなわちイエスさまが実際に罪から解放してくださると信じることに、これこそがこの世と罪に打ち勝つのです。

世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。

(1ヨハ5・5)

新しいキリスト者の方々。このことが理解できますか？罪に関して、一つ一つの罪に関して、あなたがしなければならぬことは何ですか？それらをすべて告白して、神のと

ころに持っていきましよう。神に渡してしまいましよう。神だけが、罪を取り除くことができるのです。

祈り

主なる神様。あなたのもとへ私が罪を携えて行くことができるという、この言葉では言い表せない祝福を、どのような表現で感謝したらいいのでしょうか？あなたの聖さの前では、罪がどれほどの恐れと逃亡心を、私たちのうちに起こすかを、主よ、あなたはご存じです。私たちは、まず罪を覆い隠そうと考える、次いで良いことをしたいという私たちの願いと努力で、あなたのもとへ行こうとすることを、あなたはご存知です。主よ、罪を、あらゆる罪を、携えたままでああなたのもとへ行き、その罪を告白してあなたの御前に置き、その罪をあなたに引き渡してしまうことを、私に教えてください。アーメン。

課題

一、神によって罪が覆い隠されると、人が罪を覆い隠すのとではどこが違いますか？
人はそれをどのようにしますか？
神はそれをどうなさいますか？

二、罪を告白するのに大きな妨げとなるものは何ですか？

① 罪に関する無知。

② 聖なる神のもとへ罪を携えて行くことに対する恐れ。

③ 何か良いものを持って神の前に出ようと努力すること。
④ 血潮の力と恵みの豊かさを信じないこと。

三、悪い態度、嘘、悪いことばなどを今すぐ告白しなければなりませんか？それとも私の感情が静まり、少し制御できると感じるようになるまで、待つべきでしょうか？

愛する人たち。今すぐ罪を告白してください。罪を軽くしようなどと考えないで、罪深いままで神のもとへ行きましよう。

四、人の前で告白することも、必要で役立つことなのででしょうか？

私たちの罪が人に対して犯されたものならば、それは不可欠なことです。そして、その上、それはしばしば役立ちます。自分がしたことを、人の前で認めるよりも、神の前で認める方が大抵の場合容易です。

ですから、あなたがたは、互いに罪を言い表わし、互いのために祈りなさい。いやされるためです。義人の祈りは働くと、大きな力があります。

(ヤコ5・16)

12 罪の赦し

幸いなことよ。そのそむきを赦され、罪をおおわれた人は。

(詩32・1)

わがたましいよ。主をほめたたえよ。主の良くしてください。主の何を一つ忘れるな。主は、あなたのすべての咎を赦し、あなたのすべての病をいやし、あなたのいのちを穴から贖い、あなたに、恵みとあわれみとの冠をかぶらせ、あなたの一生を良いもので満たされる。あなたの若さは、わしのように、新しくなる。

(詩103・2-5)

主への明け渡し(自己放棄)と関連して、神が恵みによって与えてくださった最初の大きな祝福は、無代価で完全に永遠に変わらない罪の赦しです。新しいキリスト者にとつて、自分の罪がこのように赦されたという事実には、堅く立ちその確信をいつも持ち続けることが非常に大切です。そのためには次の真理を特別に熟考する必要があります。私たちに与えられた罪の赦しは完全な赦しです。

東が西から遠く離れているように、私たちのそむきの罪を私たちが遠く離される。

(詩103・12)

ああ、私の苦しんだ苦しみは平安のためでした。あなたは、滅びの穴から、私のたましいを引き戻されました。あなたは私のすべての罪を、あなたのうしろに投げやられました。

(イザ38・17)

神は中途半端な赦し方はなさいません。人の間でさえ、中途半端な赦しは本当の赦しだとは考えません。神の愛はあまりにもすばらしく、イエスさまの血潮による贖いはあまりにも完全で力強いので、神はいつでも完全に赦されるのです。あなたの罪が完全に取り除かれたことが確信できるまで、時間をかけてみことばを学びましょう。神はあなたの罪をもうや思い出されないのです。

「わたしは彼らの咎を赦し、彼らの罪を二度と思い出さない。」

(エレミヤ31・34)

なぜなら、わたしは彼らの不義にあわれみをかけ、もはや、彼らの罪を思い出さないからである。

(へブ8・12)

罪の赦しは私たちが、再び神の愛に完全に立ち返らせてくれます。

ところが父親は、しもべたちに言った。「急いで一番良い着物を持って来て、この子に着せなさい。それから、手に指輪をはめさせ、足にくつをはかせなさい。」

(ルカ15・22)

神は私たちにもはや罪を負わせられないだけではなく、イエスさまの義をも私たちに分け与えてくださるのです。それゆえ、イエスさまのおかげで、イエスさまと同様に、私たちは神にとつて愛された者とされているのです。神の怒りが私たちが取り除かれただけではなく、完全な愛が私

たちの上にとどまるのです。「わたしは彼らを惜し気なく愛する。わたしの怒りが彼から去ったからだ。」赦しは神の愛へ至る道です。それゆえ赦しは贖いを通してもたらされるあらゆる祝福の基でもあるのです。赦されたことを堅く信じて生活し、聖霊が確信と祝福でああなたの心を満たしてくださいるようにしましょう。そうすれば、神からのあらゆる祝福を、信頼と期待をもって待ち望むことができるのです。神様を知り、常に赦してくださいる神として主に信頼することを、聖霊を通してみことばから学びましょう。これ（赦し）が神の御名であり神の栄光なのです。多くが、いいえ、すべてが赦されている者に、神はまたすべてを与えてくださるのです。

主は、あなたのすべての咎を赦し、あなたのすべての病をいやし、あなたのいのちを穴から贖い、あなたに、恵みとあわれみとの冠をかぶらせ、あなたの一生を良いもので満たされる。あなたの若さは、わしのように、新しくなる。

(詩103・3〜5)

それゆえ日々喜びにあふれて、神に感謝しましょう。

「わがたましいよ。主をほめたたえよ。…主は私のすべての咎を赦し（てくださいった!）…」と。

わがたましいよ。主をほめたたえよ。主の良くしてくださいったことを何一つ忘れるな。主は、あなたのすべての咎を赦し、…

(詩103・2、3)

そうすれば、赦しは新しいのちの力になります。罪の赦しは、それを毎日生きた信仰をもって新たに受け取るならば、それによつて私たちはイエスさまとイエスさまへの奉仕に新たに繋げる帯になるのです。

それで、主であり師であるこのわたしが、あなたがたの足を洗ったのですから、あなたがたもまた互いに足を洗い合うべきです。わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするように、わたしはあなたがたに模範を示したのです。

(ヨハ13・14、15)

あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。ですから自分のからだをもって、神の栄光を現わしなさい。

(1コリ6・20)

過去の罪の赦しは、新しい罪をも直ちに神に告白し、信頼して赦しを受け取る勇気をいつも与えてくれます。

神の民に、罪の赦しによる救いの知識を与えるためである。これはわれらの神の深いあわれみによる。そのあわれみにより、日の出がいと高き所からわれらを訪れ、暗黒と死の陰にすわる者たちを照らし、われらの足を平和の道に導く。

(ルカ1・77、78)

ここで一つ大事なことは、赦しの確かさは、それを記憶したり理解したりすることが大切なのではなくて、いのちの実である、ということなのです。そのいのちの実は、赦しに満

ちた神との、私たちがその中に赦しをいただいているイエスさまとの、生きた交わりから生まれるのです。

しかし、以前は遠く離れていたあなたがたも、今ではキリスト・イエスの中にあることにより、キリストの血によって近い者とされたのです。

私たちは、このキリストによって、両者ともに一つの御霊において、父のみもとに近づくことができるのです。

(エペ2・13、18)

義を持つことができる、という望みがあるからです。

(コリ3・9)

私が一度、赦しを受けたということを知るだけでは十分ではありません。私たちのいのちは神の愛の中に、信仰によってイエスさまとの生きた交わりの中にとどまっていなければなりません。それによって罪の赦しは絶えず新たにされ、力強くされ、私たちの魂の喜びとなり、いのちとなるのです。

祈り

あなたが赦しの神であられることは恵みの不思議さです。

あなたの愛の栄光をこの赦しの中に毎日、新たに教えてください。聖霊が、尽きることはない、いつも新しい、生きて、力強い祝福として、赦しの証印を私に押ししてください。そして私の日々のあゆみが感謝の歌となりませうように。「わがたましいよ、主をほめたたえよ。私のすべての咎を赦してくださいさる神を：。」アーメン。

課題

一、根本的に、赦しと神の御前に義とされることは同じことです。赦しは父なる神との関係を重要視することばです。義認は神が下された無罪放免の審判の行為を重要視します。赦しは新しいキリスト者にとつてもつとわかりやすいことばです。しかし、義認の意味とみことばがそれについて何と言っているかを理解しようとすることも大切です。

二、義認に関して、私たちが理解しなければならないこととして：

- ① 人は、生まれながらまったくの罪人です。
- ② 人は、行ないによって義とされることはありません。すなわち、神の裁きの座の前で（行ないによって）義と宣言されることはありません。
- ③ イエスさまが私たちの代わりに義をもたしてくださいのです。イエスさまの従順が私たちの義です。
- ④ 私たちは信仰を通してイエスさまを受け取り、イエスさまと一つにされ、神の前に義と宣告されるのです。
- ⑤ 私たちは信仰を通して、義とされた確信を持ち、義人として神に近づくことができます。
- ⑥ イエスさまと一体となることによって、私たちはただ義と宣告されるだけではなく、実際に義となり、義人として行動するのです。

三、あなたは、義とされ、あなたの罪が完全に赦され、神の愛に完全に立ち返ったのだという確かな事実を、日ごと
に確信して神に近づきましょう。

13 罪のきよめ

もし神が光の中におられるように、私たちも光の中を歩んでいるなら、私たちは互いに交わりを保ち、御子イエスの血はすべての罪から私たちをきよめます。もし、罪はないと言ふなら、私たちは自分を欺いており、真理は私たちのうちにありません。もし、私たちが自分の罪を言い表わすなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。

(1ヨハ1・7-9)

罪を赦される神は、同時に罪からきよめてくださいます。きよめは、赦しと同様に神の約束であって、信仰の問題です。それ(きよめ)が絶対不可欠であり、それが人には不可能であるために、きよめは赦しと同様に神から与えられるものです。きよめとは何でしょうか？きよめは旧約聖書から来たことばです。赦しが罪人に下された無罪放免であるのに対し、きよめはその人のうちに起こったことです。赦しはみことばを通して与えられますが、きよめは自分の身に起こるため、実際に経験できるのです。

この方は、銀を精錬し、これをきよめる者として座に着き、レビの子らをきよめ、彼らを金のように、銀のように純粹にする。

(マラ3・3)

きよめは、不義から、汚れと罪の働きから、私たちを解放する神の力の内的な啓示です。きよめによって、私たちはきよい心の祝福を受け取ります。そのきよい心の中においてだけ、聖霊は私たちを聖化するために、みわざを完成させ、私たちの内に神を啓示することができます。

あなたの救いの喜びを、私に返し、喜んで仕える霊が、私をささえますように。

(詩51・12)

まことに神は、イスラエルに、心のきよい人たちに、いつくしみ深い。

(詩73・1)

この命令は、きよい心と正しい良心と偽りのない信仰とから出て来る愛を、目標としています。(1テモ1・5) きよめはイエスキリストの血によります。赦しときよめは、どちらもイエスキリストの血潮を通して与えられます。天の御国の血潮が、罪の非難する力を打ち砕くのです。それによって血潮は、私たちを虜にしている心の中の罪をも打ち砕くのです。主の血潮は、天において、片時たりとも絶えず効力を発揮しています。血潮は、肉を通して罪が侵入しようとする私たちの心を絶えずきよめ、きよく保っています。血潮は、生ける神に仕えるために、死んだ行ないから良心をきよめます。血潮が天に持っているすばらしい力は、心の中にもあるのです。

まして、キリストが傷のないご自身を、とこしえの御霊によって神におささげになったその血は、どんなにか私たちが

の良心をきよめて死んだ行ないから離れさせ、生ける神に仕える者とするでしょう。(ヘブ9・14)

しかし、もし神が光の中におられるように、私たちも光の中を歩んでいるなら、私たちは互いに交わりを保ち、御子イエスの血はすべての罪から私たちをきよめます。

(1ヨハ1・7)

それ故に、きよめも信仰を通して与えられます。それは神聖で効果のあるきよめです。きよめを実際に経験し、感じたいならば、また信仰によって受け取らねばなりません。私は、自分が神に罪を告白しているときでさえ、神の御手によってきよめられていると信じています。この祝福された信仰によって、きよめそのものを、私は日ごとに経験しているのです。きよめは、神である主イエスさまによるのと同時に、人にもよります。

愛する者たち。私たちはこのような約束を与えられているのですから、いっさいの霊肉の汚れから自分をきよめ、神を恐れかしこんで聖きを全うしようではありませんか。

(2コリ7・1)

それは、私たちが自ら自発的にきよくなるようにすることに よって、神が私たちをきよめてくださるからです。血潮によって、罪に至る欲望が制せられて、罪に対抗する確かな力が呼び覚まされ、願いと意志がこのようにして活発になるのです。このことを理解する人は幸いです。その人は、自分の力できよくなるようにする無意味な努力から守られて

います。なぜなら、神だけがきよめることのできるお方であるということ、私たちが知っているからです。私たちは、落胆から守られています。なぜなら、神が必ずきよめてくださるということを知っているからです。

私たちが強調しなければならぬことが二つあります。きよめられることへの願いと、それを受け取ることです。実際にきよめられたという、強い願いがなくてはなりません。赦しはきよい生活への入り口であり、出発点ではありません。神への奉仕において成長する秘訣は、あるゆる罪から自由になることへの強い切望であり、義を追い求めて飢え渇くことであると、すでに何回か述べてきました。

あなたのしもべを、傲慢の罪から守ってください。それらが私を支配しませんように。そうすれば、私は全き者となり、大きな罪を、免れて、きよくなるでしょう。

(詩19・13)

義に飢え渇いている者は幸いです。その人は満ち足りるからです。

(マタ5・6)

きよさを願う人は幸いです。彼らは、神からのきよめの約束を理解し、それを受け取るでしょう。彼らはまた、きよめにおける信仰の役割についても学ぶでしょう。信仰を通して、まだ見たことがなく、霊的で、天的で、しかしとても現実的なきよめが、血潮を通して、神ご自身によって、彼らの内に成就されることを知るのです。

新しいキリスト者の方々。イエスさまがご自身をささげられたのは、私たちをきよめるためであったことについて、これまで学んできたことを思い出ししてください。

キリストがそうされたのは、みことばにより、水の洗いをもって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、ご自身で、しみや、しわや、そのようなものの何一つない、聖く傷のないものとなった栄光の教会を、ご自分の前に立たせるためです。
(エペ5・26、27)

主に、神である主に、きよめていただきましょう。神のきよめについてのこれらの約束のみことばをいただいているのですから、私たち自身をきよくしましょう。私たちの罪が赦された時に、あらゆる罪も、きよめ尽くされたことを信じましょう。私たちの信仰のおりになるのです。神と、みことばと、血潮と、イエスさまに対する私たちの信仰が、絶えず増し加わるようにしましょう。

神は真実で正しい方ですから、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。もし、私たちが自分の罪を言い表わすなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。

(1ヨハ1・9)

祈り

主よ、これらの約束を感謝します。あなたは私たちを赦してくださいただけではなく、きよめてくださいました。赦

しがまず確かに与えられたように、きよめもまたそれを願っている、信じるすべての人に与えられます。主よ。あなたのみことばが私の心の内部にしみ通るようにしてください。そして、あらゆる罪に対する神のきよめが私の魂の変わらぬ期待となりますように。

愛する救い主よ。栄光に富んだ、あなたの血潮による絶えざるきよめを、私の内におられるあなたの霊を通して、私を知り、いつも体験することができすように。アーメン。

課題

一、神によるきよめと、人間自身によるきよめとのつながりは何ですか？

二、ヨハネ第一の手紙1章9節によれば、きよめに先立たねばならない二つのこととは何ですか？

もし、私たちが自分の罪を言い表わすなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。
(1ヨハ1・9)

三、きよめは赦しと同様に、私たちの内になされる神のみわざなのでしょうか？この点に関して、きよめのために神を信頼することが、ことばに尽くせないほど重要なことであるとは一体何でしょうか？（神が私を赦されると同時

に、血潮によって神のきよめを私に与えてくださることを信じていることが、きよめにあずかる者になる方法です。）

四、みことばによれば、心のきよい証拠とは何でしょう
か？

五、「きよい手」とは何でしょう？

地とそれに満ちているもの、世界とその中に住むものは主のものである。まことに主は、海に地の基を据え、また、もろもろの川の上に、それを築き上げられた。

だが、主の山に登りえようか。だが、その聖なる所に立ちえようか。手がきよく、心がきよらかな者、そのたましいをむなしいことに向けず、欺き誓わなかった人。その人は主から祝福を受け、その救いの神から義を受ける。これこそ、神を求める者の一族、あなたの御顔を慕い求める人々、ヤコブである。セラ

門よ。おまえたちのかしらを上げよ。永遠の戸よ。上がれ。栄光の王がはいつて来られる。栄光の王とは、だれか。強く、力ある主。戦いに力ある主。

門よ。おまえたちのかしらを上げよ。永遠の戸よ。上がれ。栄光の王がはいつて来られる。その栄光の王とはだれか。万軍の主。これぞ、栄光の王。（詩24・1〜10）